

第7表 A区出土土器観察表⑦

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量(cm) ():復元			色 調		焼成	調整 文様		胎土(上:mm 下:量)					備考	実測 番号
				口径	底径	器高	外面	内面		外面	内面	A	B	C	D	E		
P29 第26図	157	A II層	縄文土器 深鉢	—	6.2	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR4/3 褐	良	条痕	条痕、ナデ	3 僅	微 僅				底部、内面に 黒斑あり 白色粘土	373
	158	A II層	縄文土器 深鉢	—	6.45	—	7.5YR5/3 にぶい褐	5YR4/3 にぶい赤褐	良好	条痕	条痕、ナデ	5 少		2 僅			底部、外面 に黒斑あり	369
P30 第27図	159	A II層	縄文土器 台付皿	(23)	—	—	7.5YR7/1 明褐灰	5YR5/3 にぶい褐	良好	ミガキ	ミガキ	3 僅	1 少					400
	160	A II層	縄文土器 台付皿	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐	7.5YR4/2 灰褐	良好	荒いナデ	工具によるナデ	微 多	微 多					249
	161	A II層	縄文土器 台付皿	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	条痕	貝殻刺突文、条 痕の後ナデ	0.5 僅						309
	162	A II層	縄文土器 台付皿	—	—	—	5YR5/2 灰褐	7.5YR4/2 灰褐	良好	工具によるナデ	ナデ	微 多	微 多	微 僅				252
	163	A II層	縄文土器 台付皿	(27.8)	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR4/2 灰褐	良好	工具ナデ	工具ナデ	3 少	2 多				後期中葉	394
	164	A II層	縄文土器 台付皿	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐	2.5YR5/2 灰赤	良好	縦・横方向への条痕、 ナデ	横・斜方向への 条痕、ナデ	1 僅	微 僅				後期前葉 内面に赤色 顔料あり	229
	165	A II層	縄文土器 台付皿	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐	10YR4/1 褐	良好	ミガキ	ミガキ	2 僅	1 少				後期中葉 内面に黒斑 あり	398
	166	A II層	縄文土器 台付皿	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	条痕後ナデ	条痕後ナデ、凹 線文	3 少	1 多				後期中葉	397
	167	A II層	縄文土器 台付皿	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	ナデ、貼付突帯	条痕の後ナデ	4 少	微 僅					436
P31 第28図	168	A II層	縄文土器 台付鉢or皿	—	—	—	5YR4/2 灰褐	10YR4/3 にぶい黄褐	良好	ナデ	ミガキ?	2 僅	1 少					403
	169	A II層	縄文土器 台付鉢or皿	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	10YR4/1 褐灰	良好	ナデ	ナデ	3 僅	1.5 僅				後期中葉	399
	170	A II層	縄文土器 台付鉢or皿	—	—	—	5YR4/2 灰褐	7.5YR4/2 灰褐	良好	ナデ	ナデ	4 少	2 多	1.5 僅				396
	171	A II層	縄文土器 台付鉢or皿	—	(14.4)	—	5YR4/3 にぶい赤褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	横・斜方向の条痕、ナ デ	工具によるナデ	3 多	微 多					221
	172	A II層	縄文土器 台付鉢or皿	—	(9.1)	—	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良	条痕の後ナデ、指ナ デ、ナデ		2 少	微 僅					395
	173	A II層	縄文土器 台付鉢or皿	—	(5.5)	—	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	ナデ、凹線文	ナデ	2 少					後期中葉 穿孔あり	300
	174	A II層	縄文土器 台付鉢or皿	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	ナデ、やや風化	ナデ	4 多	微 少					245
	175	A II層	縄文土器 台付鉢or皿	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良	ナデ	ナデ		1 多					273
	176	A II層	土器加工 円盤	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐		条痕後ナデ	条痕後ナデ	1 僅						578
	177	A II層	土器加工 円盤	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良	ナデ	条痕		1 僅					579
	178	A II層	土器加工 円盤	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐	2.5YR4/1 赤灰	良	条痕	条痕の後ナデ	1 僅	微 僅	1 少				577
179	A II層	土器加工 円盤	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	条痕	条痕	1 僅	微 僅	微 少			穿孔あり	575	
P34 第31図	180	SE 3	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	条痕	条痕	2 僅	微 僅				条痕 内面に 黒斑あり	402
	181	SE 3	縄文土器 深鉢	—	10.8	—	5YR5/3 にぶい赤褐	10YR7/1 灰白	良好	条痕後ナデ	条痕後ナデ	3 少	1 僅				底部	401
	182	SE 3	縄文土器 深鉢	—	(9.8)	—	5YR5/3 にぶい赤褐	7.5YR4/2 灰褐	良	条痕の後ナデ	条痕	5 多	1 多				脚台 内面に 黒斑あり	404

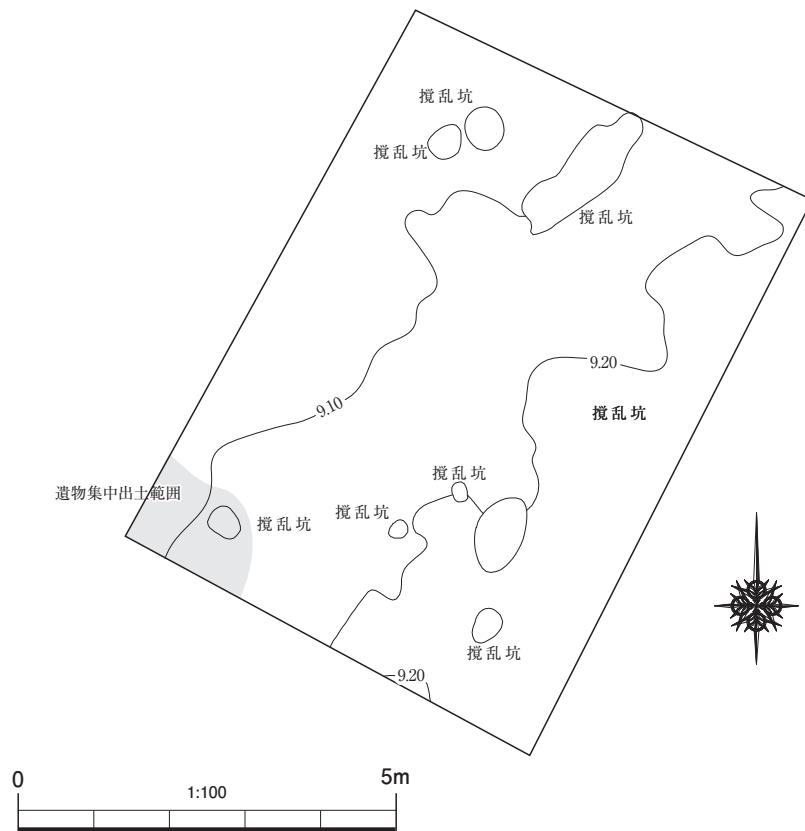
第8表 A区出土土器観察表⑧

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量(cm) ():復元			色 調		焼成	調整 文様		胎土(上:mm 下:量)					備考	実測 番号
				口径	底径	器高	外面	内面		外面	内面	A	B	C	D	E		
P34 第31図	183	AⅢ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	2.5YR4/3 にぶい赤褐	良好	凹線文に棒状刺突文、 ナデ、条痕の後ナデ、 指ナデ、キザミ	条痕の後ナデ		微 僅	1.5 多			底部 口唇 部にキザミ	420
	184	SE 3	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	条痕	条痕	1 少	1 多			春日式	443	
	185	AⅢ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR4/1 褐灰	良好	貝殻刺突文、突帯に キザミ	ナデ	2 僅	微 多			船元系	419	
	186	AⅢ層	縄文土器 深鉢	(13.3)	—	—	7.5YR4/2 灰褐	5YR5/3 にぶい赤褐	良好	条痕の後ナデ、つま みによる貼付突帯	条痕	3 少	微 僅		1 少	川水流Ⅲ類 口唇部にキザミ 外面に黒斑あり	415	
	187	AⅢ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良	ナデ、指ナデ、指オ サエ、つまみによる 貼付突帯	条痕の後ナデ	2 僅	2 多			川水流Ⅲ類	416	
	188	SE 3	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR4/3 オリープ褐	7.5YR4/2 灰褐	良	ナデ、つまみによる 貼付突帯	条痕	4 少	微 僅	1 僅		市来	437	
P35 第32図	189	SE 3	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR4/2 灰褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	条痕、貝殻刺突文	ナデ	4 少	1 少			市来	405	
	190	AⅢ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR3/1 黒褐	良好	条痕の後ナデ、ナデ、 刺突文	条痕の後ナデ	2 僅	1 少	1 僅		市来	417	
	191	AⅢ層	縄文土器 深鉢	(27.6)	—	—	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良	磨滅により不明、貝 殻刺突文	条痕		微 僅			丸尾B	422	
	192	AⅢ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	条痕、貝殻押し引き	条痕の後ナデ	3 僅	1 少	1 僅		丸尾A 外面に黒斑 あり	421	
	193	AⅢ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	貝殻押し引き、条痕後 ナデ	条痕後ナデ	1 僅	微 多			丸尾A	441	
	194	AⅢ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	条痕後ナデ	条痕後ナデ	1 僅	微 多			後期前葉	418	
	195	AⅢ層	縄文土器 深鉢	(18.6)	—	—	7.5YR7/1 明褐白	7.5YR3/1 黒褐	良好	ナデ、条痕、貝殻刺 突文	条痕	2 少	2 少			丸尾B	413	
	196	AⅢ層	縄文土器 深鉢	—	(7.8)	—	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良	ナデ	ナデ	2 僅	1 多			底部	412	

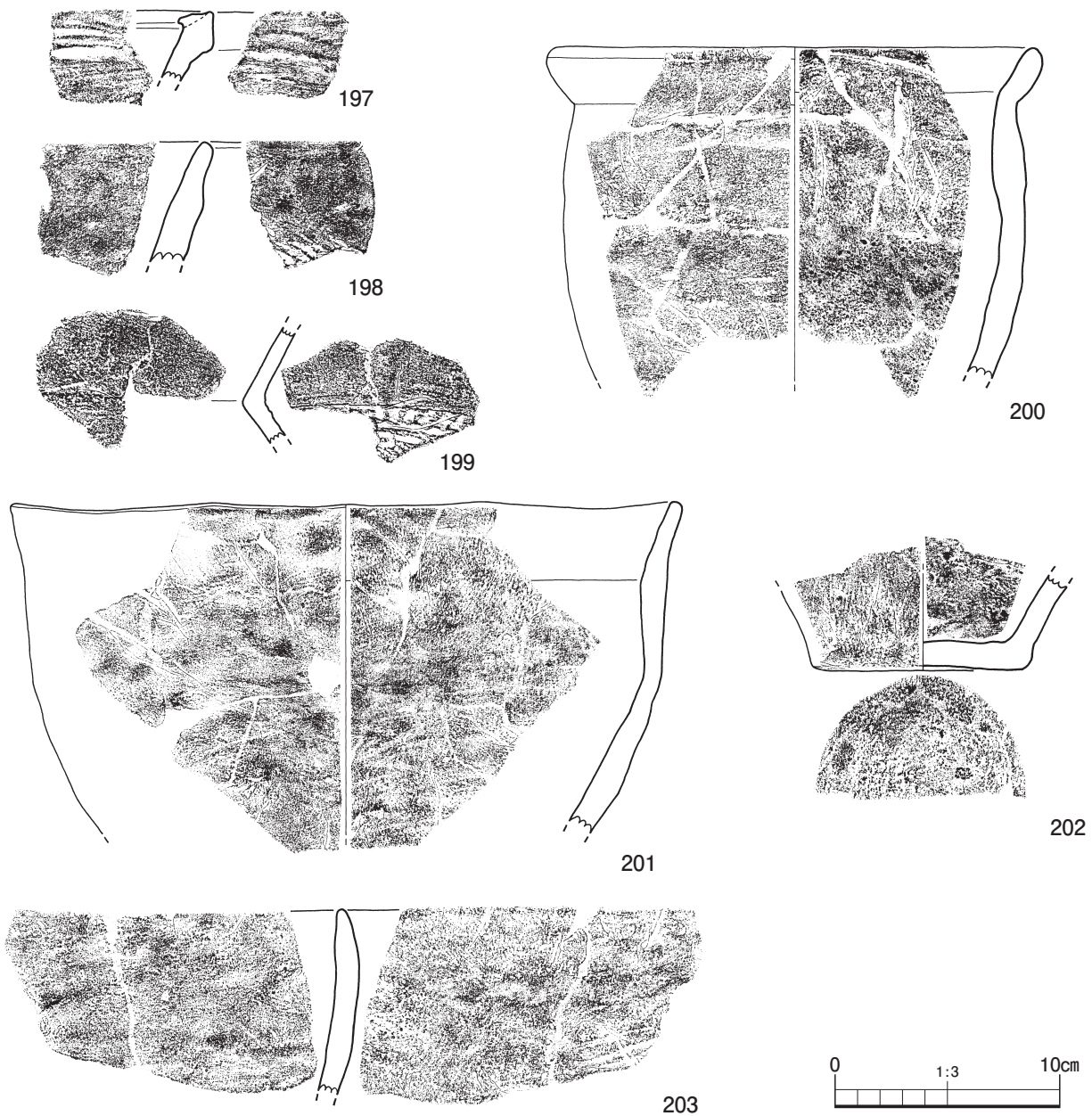
第5節 B区の調査（第33図）

B区は調査地の南東部の調査区である。A区と同様、建物基礎が設けられる位置にあたる。短軸6.0m、長軸8.3mの調査面積49.8㎡を測る長方形の調査区である。現地表面以下の整地用に施された盛土層（I a層）が約1.3m堆積し、その直下には、調査区南西の一部でII層の堆積が遺存していたものの、I a層の直下にV層が露頭している状況で、I a層に多量に含まれる岩砕がV層の表面に押しつぶされるように残っており、岩砕が入っていたくぼみが検出されたV層表面の所々に残った。結果、B区では遺構は確認されず、調査区南西の一部遺存していたII b層の堆積が認められたのみで、出土遺物もII b層に包含された遺物（第34図、第57図377）のみである。

197～203はB区II b層で出土した土器である。197は松山式土器で口唇部には内傾する面を持ち、面上には沈線を施す。198は小破片であるが、丸尾式土器に後続する納屋向タイプの一群と思われる。199は西平式土器と思われ、くの字に外反する口縁部を持ち、屈曲部の下に連点文とその下に沈線を施す。器壁は薄手である。200は、くの字に外反する短い口縁部を持ち、胴部は丸味を帯びる。粗雑な作りで器壁は厚く、粗いナデ仕上げである。201は口が大きく開き、器高は低いと思われる。粗雑な作りで器壁は厚く、粗いナデ仕上げである。202は口縁部が内湾しながら立つ。200、201同様に粗雑な作りで器壁は厚く、粗いナデ仕上げである。202は口縁部が内湾しながら立つ。



第33図 B区調査区図（1/100）



第34図 B区出土土器実測図 (1/3)

第9表 B区出土土器観察表

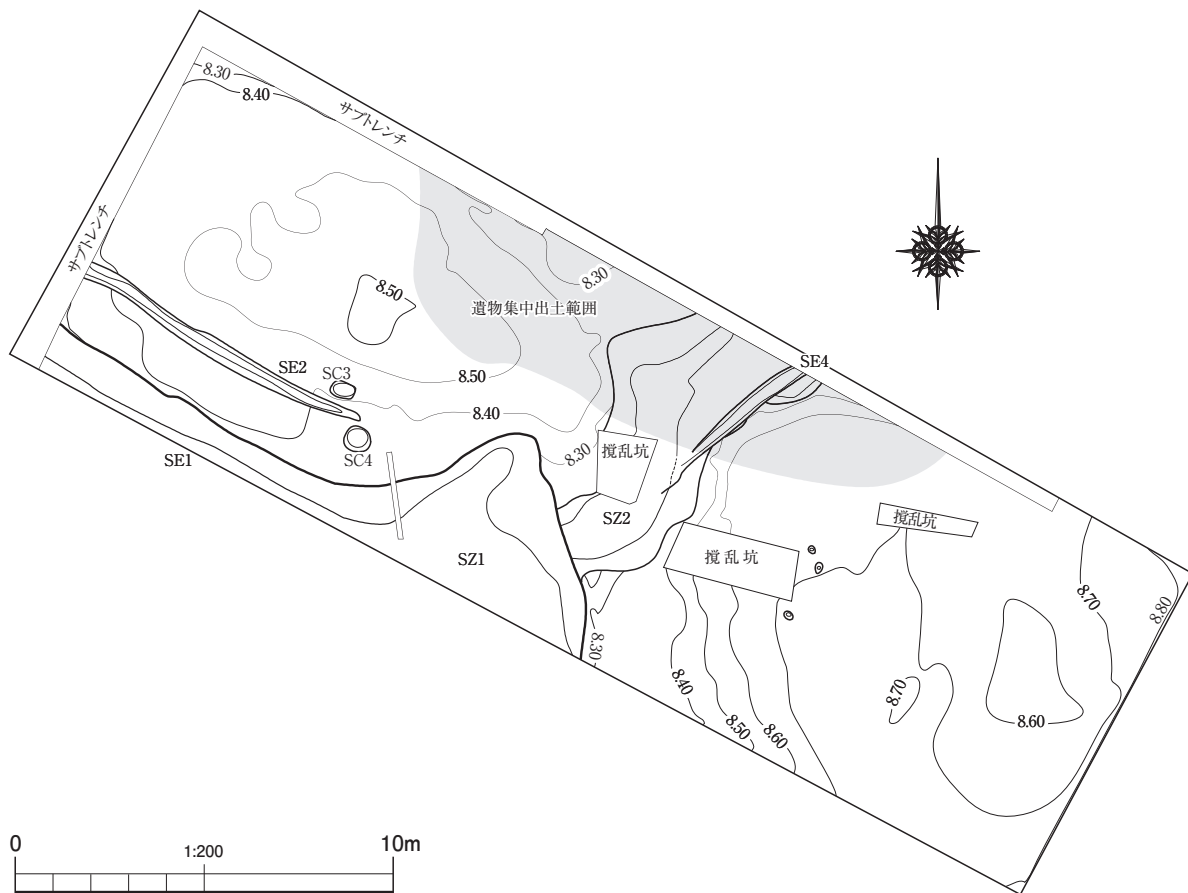
掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量(cm) ():復元			色 調		焼成	調整 文様		胎土(上:mm 下:量)					備考	実測 番号
				口径	底径	器高	外面	内面		外面	内面	A	B	C	D	E		
P45 第34図	197	B II層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐	5YR6/4 にぶい橙	良好	条痕後ナデ	条痕後ナデ	1 僅	微 僅				松山式	571
	198	B II層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐	10YR5/2 灰黄褐	良好	ナデ、刺突文	ナデ	4 多	1 少				外面に黒斑 あり	570
	199	B II層	縄文土器 深鉢	—	—	—	N3/0 暗灰	7.5YR4/1 褐灰	良好	凹線文、刺突文、ナ デ	ナデ	3 少	1 多	1 僅			西平式?	574
	200	B II層	縄文土器 深鉢	(21)	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	2.5YR5/3 にぶい赤褐	良好	ナデ	ナデ	3 多	1 少					573
	201	B II層	縄文土器 深鉢	(29.3)	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	ナデ	ナデ	5 多	微 少				内外面に黒 斑あり	568
	202	B II層	縄文土器 深鉢	—	8.4	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	ナデ	ナデ	2 僅	2 僅	1 僅			内外面に黒 斑あり	572
	203	B II層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	ナデ	ナデ	2 多	1 僅				内面に僅か に黒斑あり	569

第6節 C区の調査（第35図）

C区は調査地の北東部の調査区である。ピロティ構造の建物中で、唯一1階部分に設けられる部屋の位置にあたる。短軸10.8m、長軸30.0mの調査面積324㎡を測る長方形の調査区である。3調査区のうち、現地表面以下の整地用に施された盛土層（I a層）が最も厚く2.0～3.5m堆積している。I a層除去後調査区の東側約1/3を除いては、II a層に類似するものの色味はII a層に似るが、シルト質が強く水分を多く含んだII b層が全体に厚さ5～10cmほど堆積していた。II a層同様、縄文時代後晩期の遺物包含層と判断できるが、II a層との関係を解決することはできなかった。II b層の堆積は調査区西側に広く堆積していたものの遺物の平面分布には偏りが見られ、個体が解るほどの土器片が、調査区中央部の北側で集中して出土したことをのぞいては、他の地点では出土しなかった。

遺構は調査区の中央から西側で確認された。溝状遺構が3条、池状遺構が1基、谷状の落ち込みが1箇所確認された。

II b層除去後の地山は調査区全体でV層が露出していたが、調査区の東西両側から中央部に向かって下っていく状況が見てとれ、中央部が、浅く谷状に落ち窪んでいたことが伺える。特に調査区の東側では後世の切土造成により、地山層の欠失があるものの50cmほどの高低差があり、削平を受けていない本来の地形は谷部が顕著であったと思われる。今回検出された遺構はいずれもこの谷地形を利用して設けられたことを想起させるものであった。



第35図 C区検出遺構配置図（1/200）

1号溝状遺構、池状遺構（第36図）

略号は1号溝状遺構をSE1、池状遺構をSE1と付した。調査区の南端の中央部から西側で検出された。遺構は調査区外にも及んでおり全容は確認できない。池状遺構は北側で、後述する谷状の落ち込みを切っている。1号溝状遺構と池状遺構と分けて名称を付しているが、互いの底面の高さも明確な段を確認することはできず、埋土の堆積状況の観察でも先後関係を見ることはできなかったため、同時期の遺構と判断される。

1号溝状遺構は検出された部分の長さは約11.0m以上、幅1.9m以上、深さ85cm以上を測る。底面は接続する池状遺構から西に向かってわずかに下り勾配になる。埋土は粘質土が主体で最上層（①層）及び最下層（⑤層）ではマンガンを多く含んでおり、土壌が堆積する過程で、水生植物が茂っていたことを伺わせる。遺物は埋土中部（③層）から土師器片（209）や縄文土器片がわずかに出土している。池状遺構は検出された部分範囲では不定形で、最大幅6.0m、深さ約0.65m以上を測る。遺構内の埋土は自然堆積層であるが、全体に混濁したような状況が見られ、粘質土と砂質土が混ざり合う状況が各層で見られ、層の下部近くの④c層では鉄分の割合が非常に高く、さらに下層の④d層はグライ化も見られ、湧水があった可能性も示している。遺物は埋土下部（④層）で土師器片（208～212）が出土している。

205は1号溝状遺構出土の土器である。市来式土器の口縁部と考えられる。断面三角形に肥厚させ、屈曲部上半に連続刻目を施す。

2号溝状遺構（第35図）

略号はSE2と付した。1号溝状遺構の2mほど離れた場所で、1号溝状遺構にほぼ平行するようにも走っている。遺構の西側は調査区外に及んでおり、東側は遺構が収束していた。検出された部分の長さ約8.5m以上、幅0.8mを測るが、深さは約8cmと浅い。埋土には暗褐色のシルト質と粘質土が混合したような土壌が堆積していた。埋土中から遺物は出土していない。

4号溝状遺構（第35図）

略号はSE4と付した。後述する遺構の北側は調査区外に及んでおり、南側は遺構が収束していた。後述する谷状の落ち込みを切っている。検出された部分の長さ約5.0m以上、幅0.5m、深さは約15cmを測る。溝の底面は北側から池状遺構に向かって下っていく状況が見られたが、途中で収束していることで、互いの遺構の関係性を確認することはできなかった。埋土には黒褐色のシルト質土が堆積していた。埋土中から須恵器杯身の破片（204）や、縄文土器片が出土している。

204は須恵器杯身である。小破片のため詳細は判らないが9～10世紀にかけての製作と考えられる。206、207は中岳Ⅱ式と考えられ、206が胴部から口縁部にかけて、207が胴部にかけての遺存で、同一個体の可能性が考えられる。206は口縁部に向け緩く外反し、端部には面を持つ。207は胴部中位にごく浅い2条の平行する凹線とM字形の凹文を施す。208～212は小型の鉢で、丸底もしくは尖底気味の底部を持つと思われ、体部は口縁部に向け内湾気味に立ち上がる。いわゆる布痕土器である。213は納屋向タイプと呼ばれる土器で胴部中位のやや高い位置に連続貝殻腹縁文を施す。全体に作りが粗雑で口縁部は平縁であろうが、安定していない。214は宮之迫3式土器もしくは宮之迫4式土器である。口唇部に連続刻み目を施し、ややしたに3条以上の凹線を施す。215は市来式土器である。口縁部を断面三角状に肥厚させ、上半に連続刻み

目を施す。

3号土坑、4号土坑（第35図）

略号はそれぞれ、SC3、SC4と付した。2号溝状遺構の東側で収束する両側で、3号土坑が南側、4号土坑が北側で検出された。3号土坑は、平面形はほぼ円形で直径が0.8m、深さ80cmを測り、4号土坑は楕円形に近い形を呈し長軸0.7m、短軸0.5m、深さ80cmを測る。ともに底面はほぼ平坦になり、深さも同じである。同様に埋土には暗褐色のシルト質土が堆積しており、遺物は出土していない。埋土の状況、構築場所から2号溝状遺構に関連する施設の痕跡と考えられる。

谷状の窪み（第38図）

略号はSZ2と付した。調査区の中央を南北方向から西南方向に蛇行するような形状で検出された。北東側は調査区外に及び、南側は池状遺構に切られる。また一部を4号溝状遺構と攪乱坑によっても切られている。検出された部分の長さ約7.6m以上、幅3.8m底面までの深さは最深部で75cmを測るが、南側に向かうに従い浅くなり、池状遺構に切られる付近では深さ20cmになる。断面形はレンズ状に近いが、上端から底面の間でも数ヶ所の傾斜変換が見られ、その面の幅も0.4~2.0mと安定しない。埋土は自然堆積による埋没が観察でき、いずれも粘質土が堆積している。各層で鉄分、マンガンを含み、埋土中位の②a層から②d層では互層を形成し、砂質土がラミナ状に堆積する箇所も観察されたため、土壌が堆積する過程で水流があったことも伺える。また、埋土に特徴的に含まれるものとして、最上位に堆積する①a層と③a層では5~20mmの炭化物の粒子が3%程含まれている。存在当時、周辺部に集石遺構などの火処があったことも伺えるが、礫は多数出土するものの、集石遺構を組成する焼石は1点も確認されなかった。

遺物は土器、及び石器が埋土最上層の①a層で多数出土したが、②a層から②d層では出土せず、底面近くの③a層では縄文土器の小破片が数点出土した。ただし、底面近く付近では、人頭大の砂岩の自然礫が15個集中して出土したが、人為的に配されたものであったかについては特定できなかった。

今回確認された「谷状の窪み」は調査区の中央で確認され、先述した調査区の勾配もこの「窪み」に向かって下る。また、この谷状の窪みの上部に堆積していた基本層序Ⅱ層も水平堆積ではなく、この「窪み」を最下部としてレンズ状に堆積し、谷状の窪みの埋土①a層と性質、色味は共に違えども、基本層序Ⅱb層からも大量の遺物が出土し、互いの層位で出土した土器が接合した状況も見られたため、C区で検出された基本層序Ⅱb層も谷状の遺構が埋没する過程の最終段階に堆積した土壌であると考えられる。

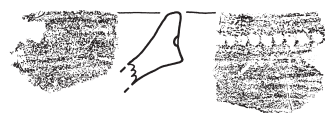
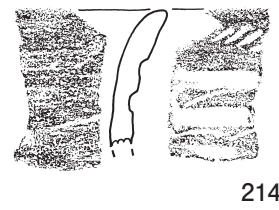
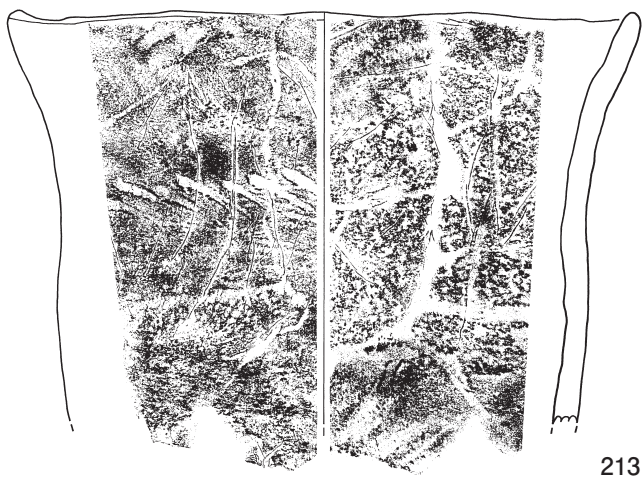
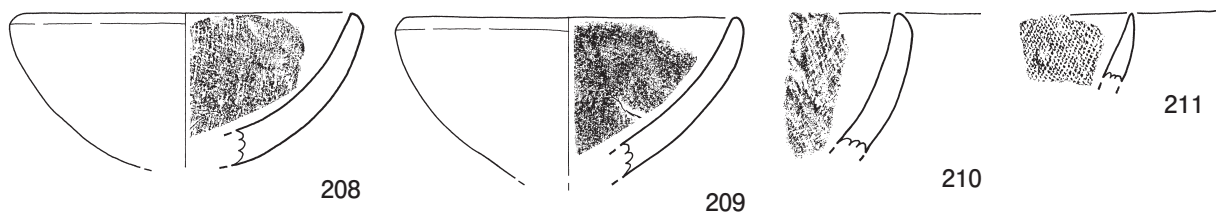
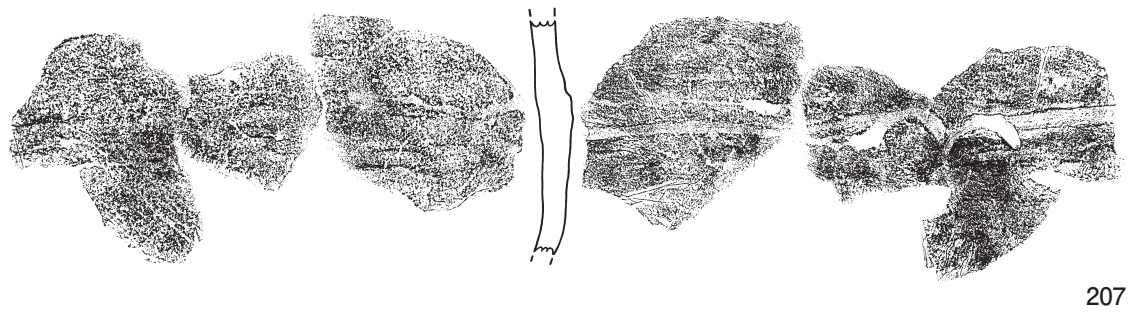
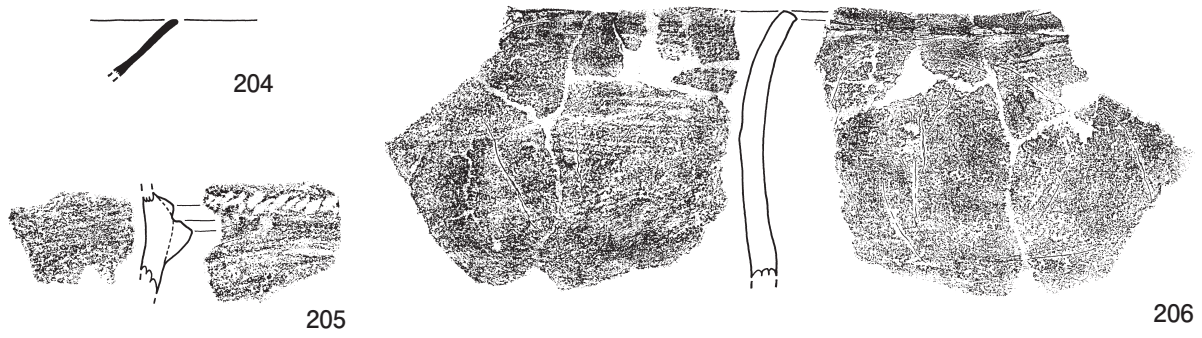
216~331は谷状の窪みの埋土内から出土した土器、及び土製品である。

216は宮之迫4式土器である。平行する3本の沈線の上から連続刻み目を施す。

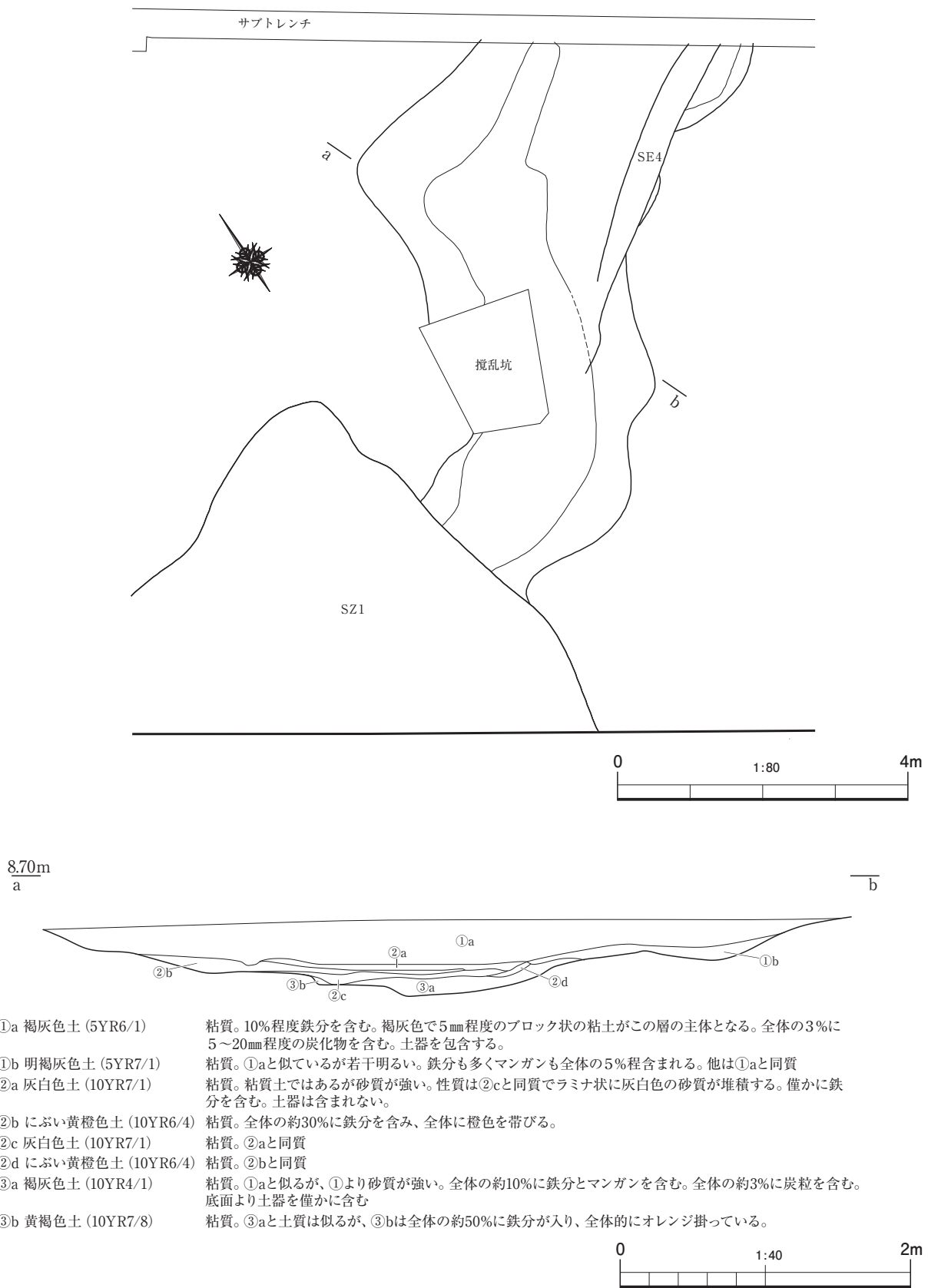
217~233は市来式土器の一群である。いずれも口縁部付近の資料である。217、218は口縁部を断面三角状に肥厚させ、端部はつまむように内傾する。上半に凹線とその上に連続貝殻腹縁文、下に連続刻目を施す。219~244は口縁部が二重口縁状に内傾する。文様帯は屈曲部の上半に凹線、連続刻目、連続貝殻腹縁文を施すが、224は下半に浅い凹線を二重に施す。225、226は二重口縁状になる口縁部の屈曲部が突帯状に張る。225は屈曲の上半に連続刻み目文、226は凹線を施す。227、228は口縁部が屈曲部を持たずに外反するが、外面に突帯状の肥厚部を有



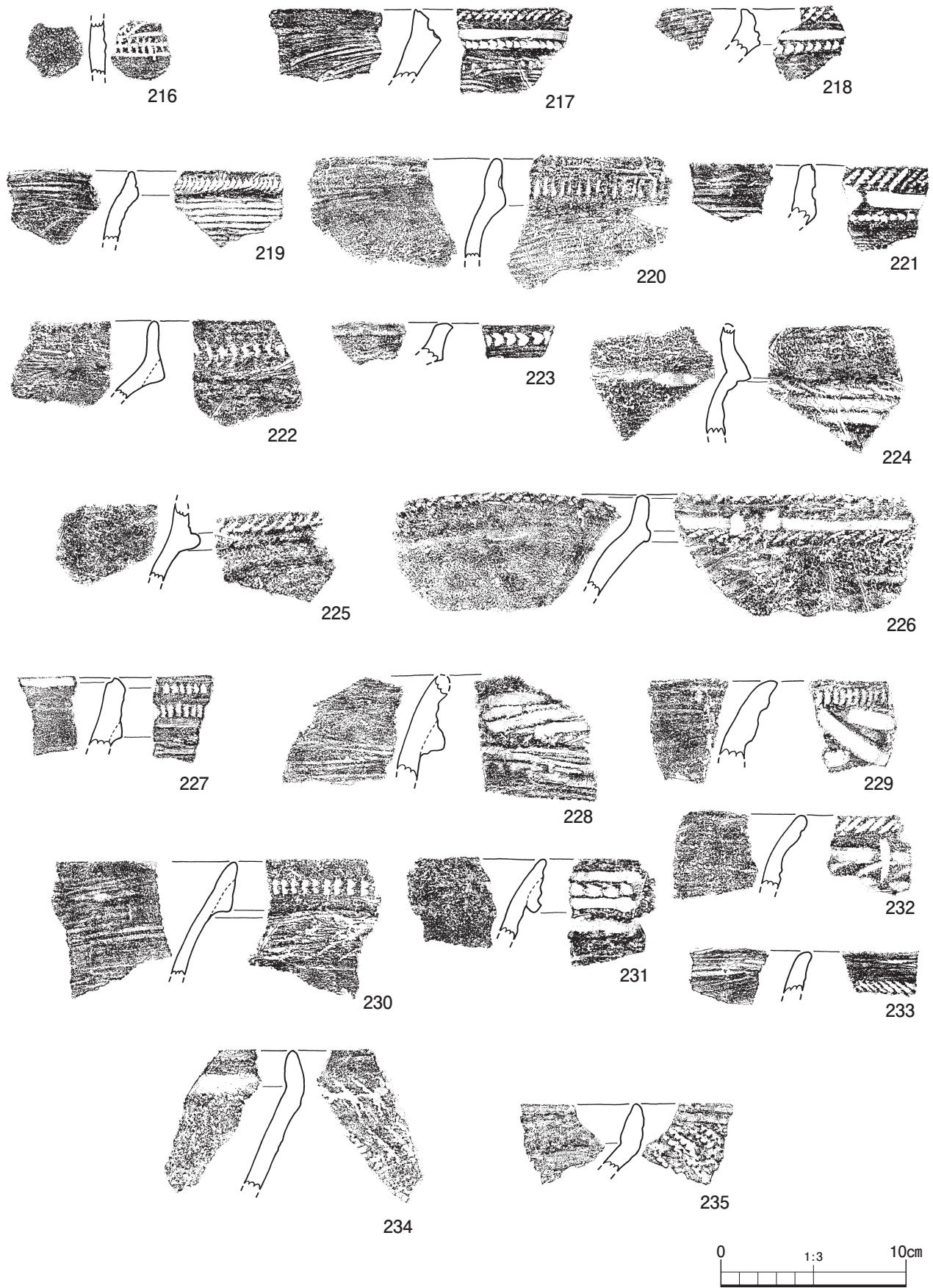
第36図 C区1号溝状遺構、池状遺構実測図 (平面図 S= 1/100 土層図 1/40)



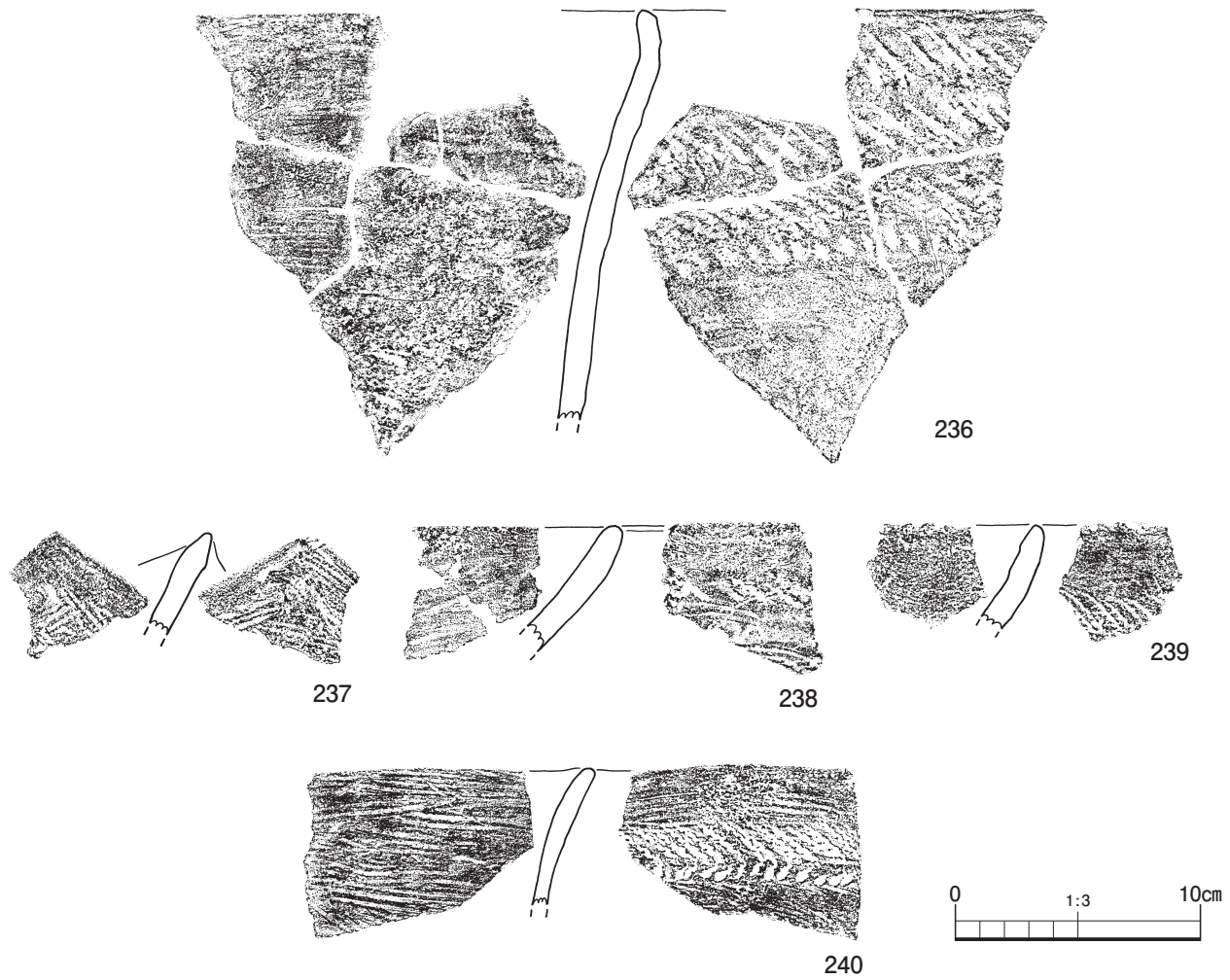
第37图 C区1号溝状遺構、池状遺構出土土器実測図(1/3)



第38図 C区谷状の窪み (平面図 S= 1 / 80 土層図 1 / 40)



第39図 C区谷状の窪み出土土器実測図① (1/3)



第40図 C区谷状の窪み出土土器実測図② (1/3)

する。やはり肥厚部の上半に文様帯を持ち、227は2段の連続貝殻腹縁文、228凹線文を施す。230、231は口縁部に肥厚帯が見られるが、口縁部は直線的に外反し、外面の口縁部下に粘土帯を貼付けることで肥厚帯をつくる。

234～235は丸尾式土器の一群である237は波状口縁を呈し、それ以外は平縁口縁を呈する。234～236は口縁端部が屈曲して内傾する。236、237は文様帯下に屈曲部が見られないため、丸尾B式土器と考えられる。

241～252は丸尾式土器に後続する納屋向タイプの一群と思われる。文様帯が口縁部の上位に限られる丸尾式土器とは異なり、胴部中位以上に文様を施す。いずれも平縁口縁を呈するが、端部は安定せずうねる(241)。口縁部は外反しながら直線的に開くもの(241、242)、直線的に開くもの(243、244、251、252)、胴部から口縁部にかけて緩く屈曲して開くもの(245)がある。胴部は丸尾式土器に比べ、僅かに丸味を帯び張る(245、250、252)。文様帯は、連続貝殻腹縁文を口唇部近くに施すもの(243、246、247、249)、胴部と口縁部の境に施すもの(245、250、251、252)がある。施文は連続貝殻腹縁文を基本とするが、斜め方向に一定して施すだけでなく、山形に施文するものも見られる(241、245)

253～273は納曾式土器の一群である。プロポーシオンは2種類に大別され、丸味を帯びた胴部から屈曲を持って口縁部が外反するものタイプ(253、254)、胴部から口縁部に向け直線的に開くタイプ(262)がある。口縁部は波状口縁のもの(253、255、257、259)、平縁口縁のもの(254、256、258)があるが、端部の断面形態でさらにバリエーションが見られ、端部が屈曲して内傾するもの(253、256、257)、直線的に開くもの(254、259、262～267)、三角状に僅かに肥厚するもの(255、260、261)、外反りするもの(258、268)がある。文様帯は胴部中位付近と口縁端部付近に二重以上の直線状の沈線文を施すものが多いが、沈線は平行を基調にはしているが粗雑である。253は沈線文帯の上位に、260、261は口縁端部に連点文を施す。また269は沈線文の上からV字状の凹点を施す。なお、262の器形は納曾式土器とされる群とは異なるものの、文様の特徴から今回は納曾式に含めた。

274～278は中岳Ⅱ式土器である。全体的な特徴として胴部の最大径を最上位に持ち、緩く屈曲し、口縁部は外反り気味に開く(274、275、278)。口縁端部を肥厚させるもの(274、275、277～280、281、283、284)、肥厚しないもの(276、285、286)、端部がSの字状になるもの(287)がある。282は波状口縁を呈し、他は平縁口縁を呈する。文様は器壁外面をナデ調整したのちに胴部の最大径部分、もしくはそのやや上部分と口縁端部の2部位のみに、二重のごく浅い凹線もしくは沈線を施す。またその凹線、沈線の上から三日月形の凹点を施すもの(274～277、286)もみられる。

288、289はいわゆる黒色磨磨土器とされる浅鉢の群である。いずれも口縁部が著しくカーブを描いて外反し、口縁端部は摘まむように僅かに立つ。288は器壁表面の風化がいちじるしいものの、289は内外面に丁寧磨きが残る。289は上加世田式土器に類すると思われる。

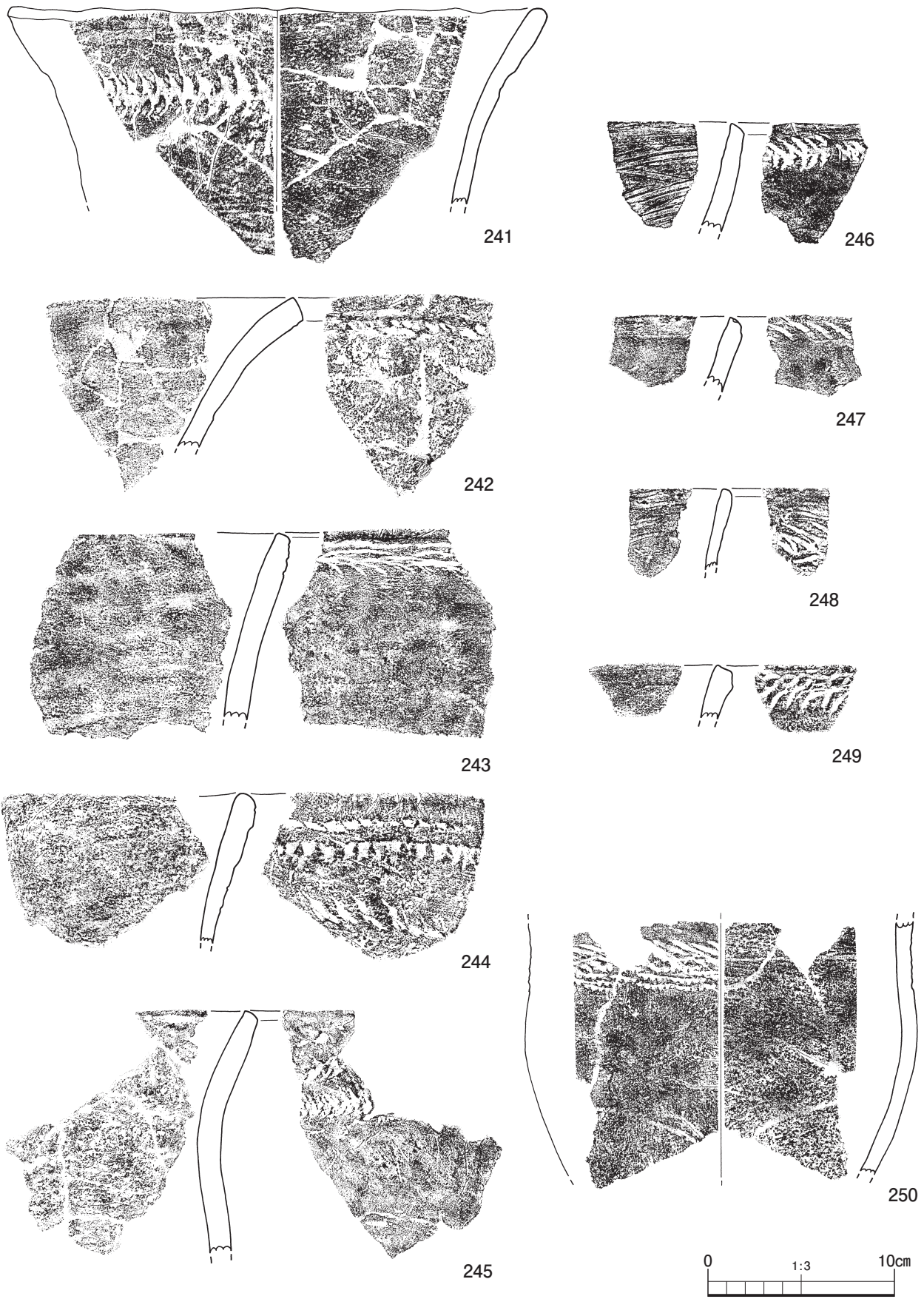
290～311は形式が不明の土器である。

290～309は文様帯がないナデ仕上げの一群である。器壁が灰色味がかっており、器壁は分厚い。胴部最大径を上部に持ち、胴部がくの字に屈曲するもの(295～297、300、308)が多く、口縁部は外反りしながら開くが、303は内湾する。口縁端部は断面三角状に肥厚するもの(290～292)、端部が外傾する面をもつもの(293～296、300、302)、口縁端部が丸味を帯びるもの(297～299)がある。

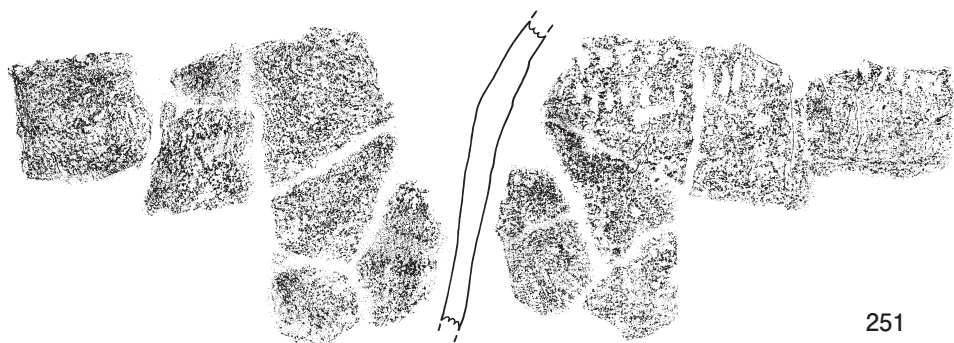
310、312は口縁部に沈線の文様帯を持つ群である。市来式土器、納曾式土器、中岳Ⅱ式土器でも口縁部上位に文様帯を持つタイプがあるが、310、311の口縁部は肥厚せず、全体に器壁が薄い。310は二重口縁状の口縁部を持ち、胴部からカーブを描き開く。

312～326は底部資料である。312～324は深鉢の底部である。平底を呈するもの(312～318)、僅かに上げ底を呈するもの(319～321)、上げ底を呈するもの(322)、平底を呈するが、接地面が小さく、底面が厚くなるもの(323、324)に大別される。それぞれ組織痕等は確認できない。325は台付皿形土器の底部で器壁が厚くナデ仕上げである。326も底部資料であるが、接地面の径が著しく狭く、前者の325とは異なる器種が考えられる。

327～331は土錘である。何れも長さ5cmほどの楕円形を呈する。両端に抉りを施し、328、331は中央を浅く溝状の窪みもみられる。土器片からの転用品と考えられる。



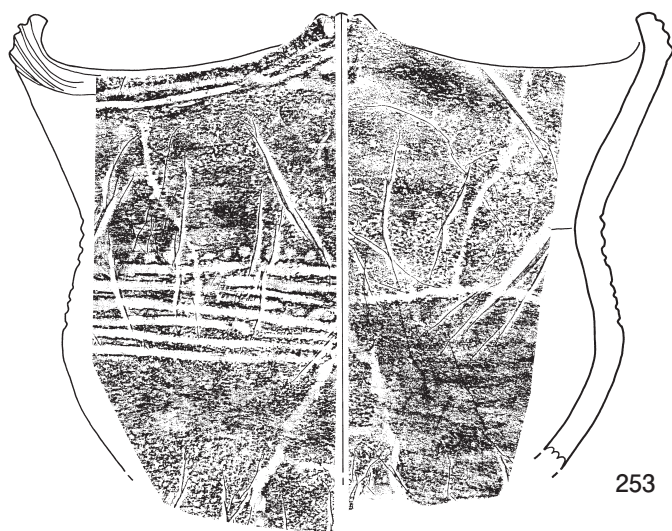
第41図 C区谷状の窪み出土土器実測図③ (1/3)



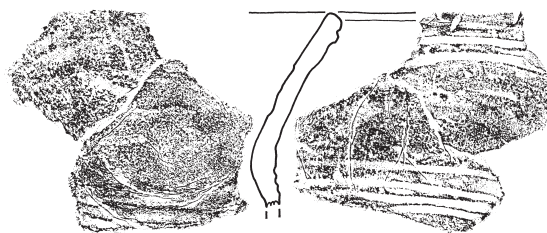
251



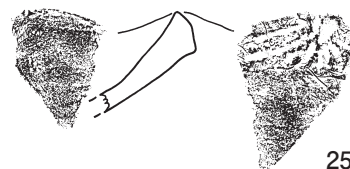
252



253



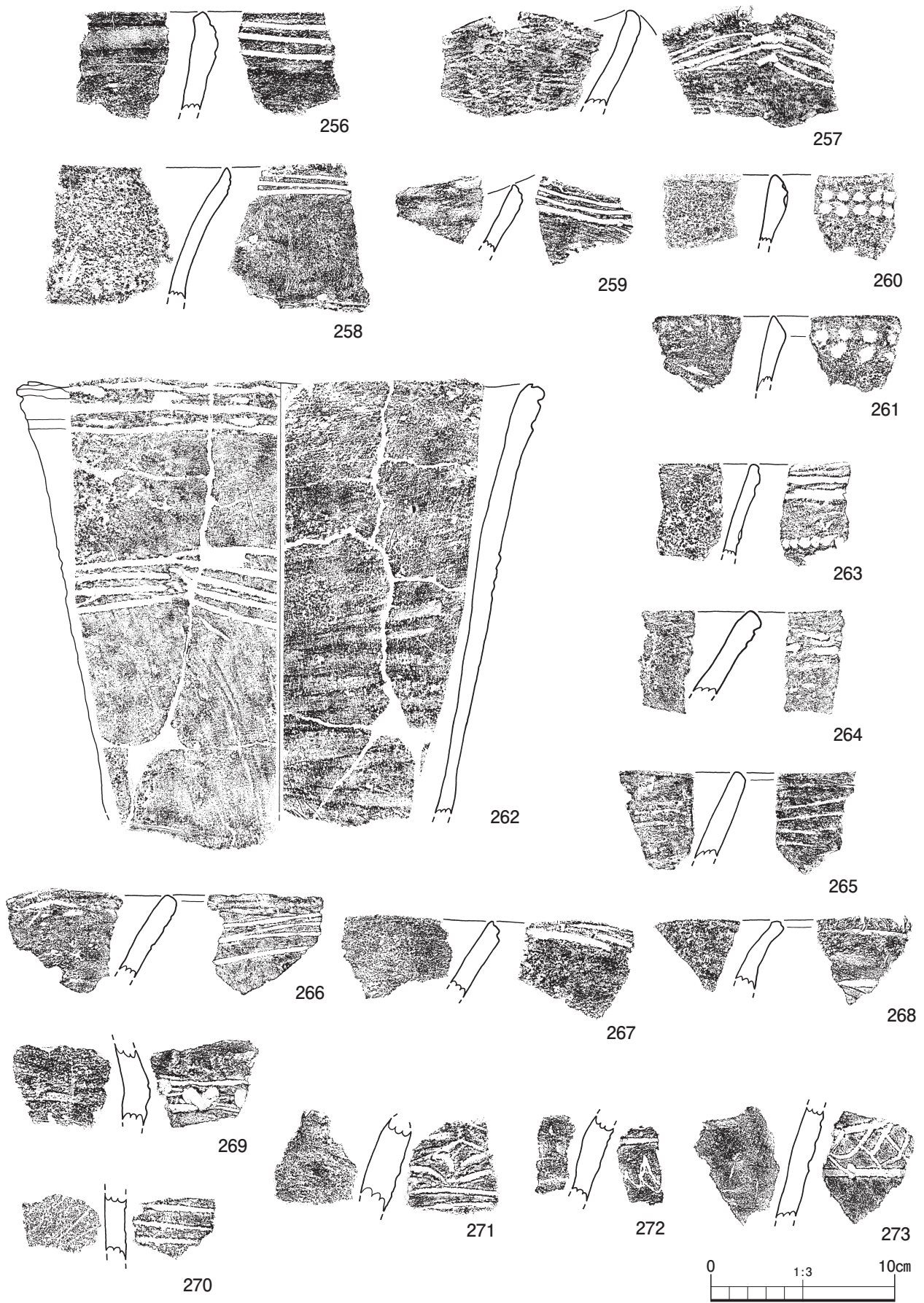
254



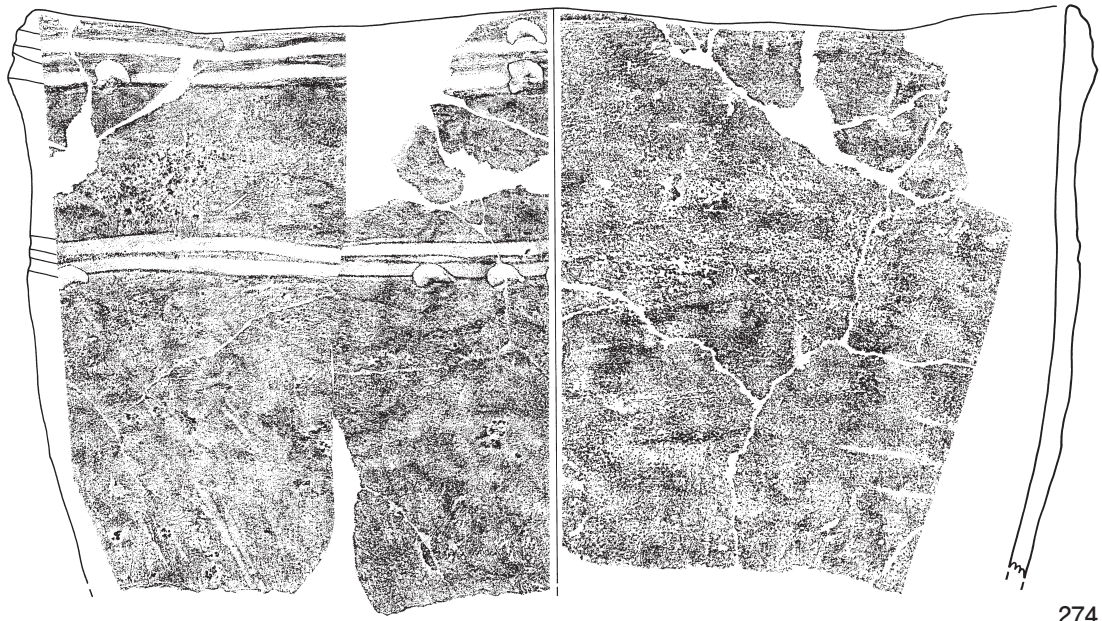
255



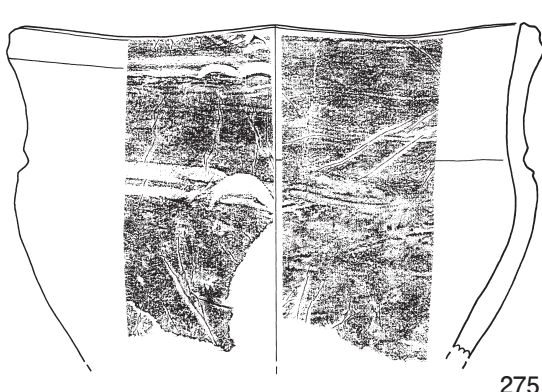
第42図 C区谷状の窪み出土土器実測図④ (1/3)



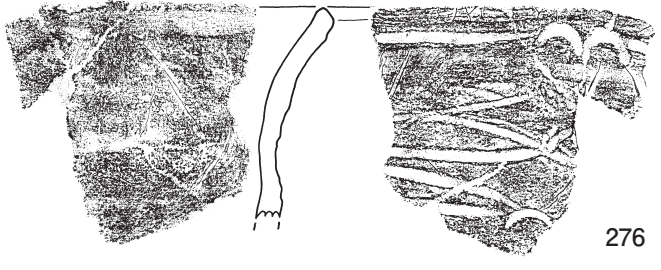
第43図 C区谷状の窪み出土土器実測図⑤ (1/3)



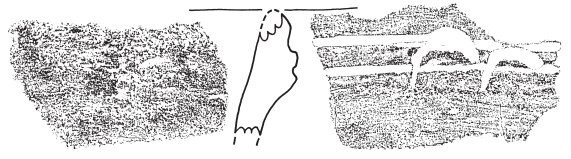
274



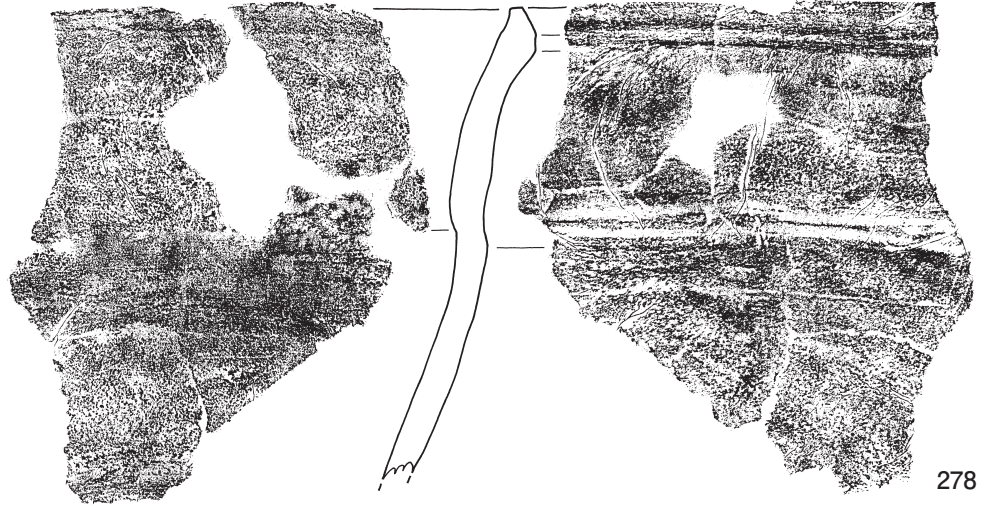
275



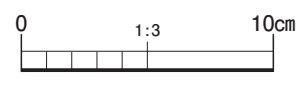
276



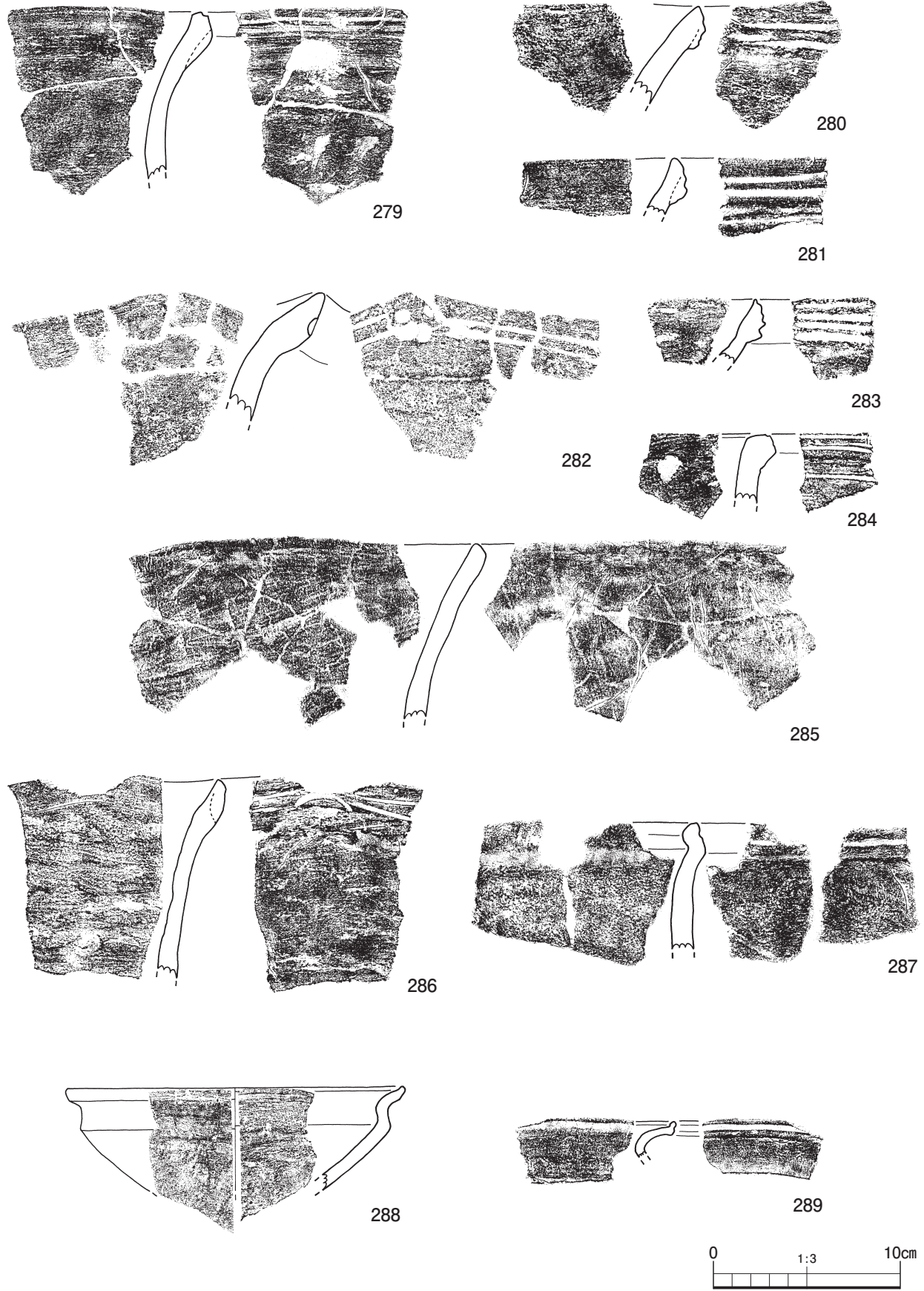
277



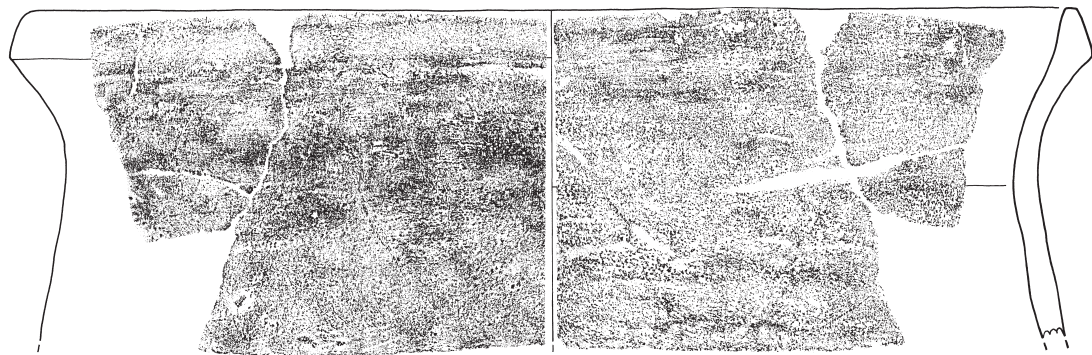
278



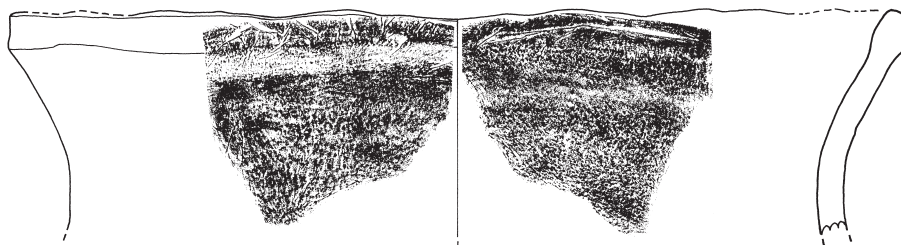
第44図 C区谷状の窪み出土土器実測図⑥ (1/3)



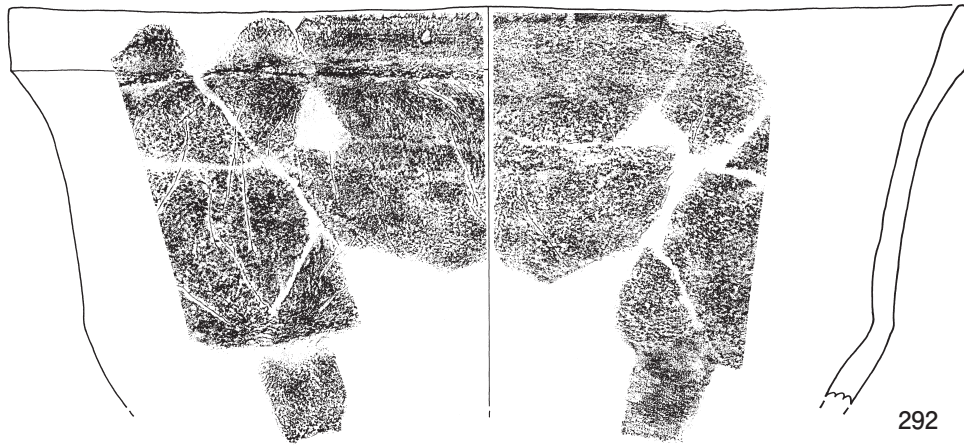
第45図 C区谷状の窪み出土土器実測図⑦ (1/3)



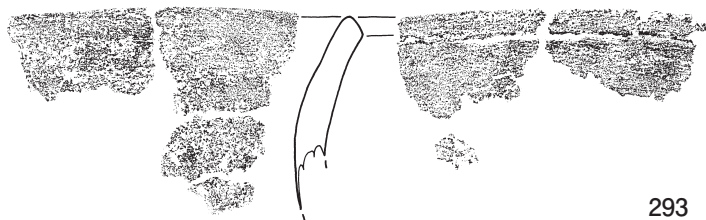
290



291



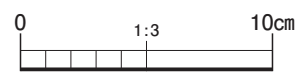
292



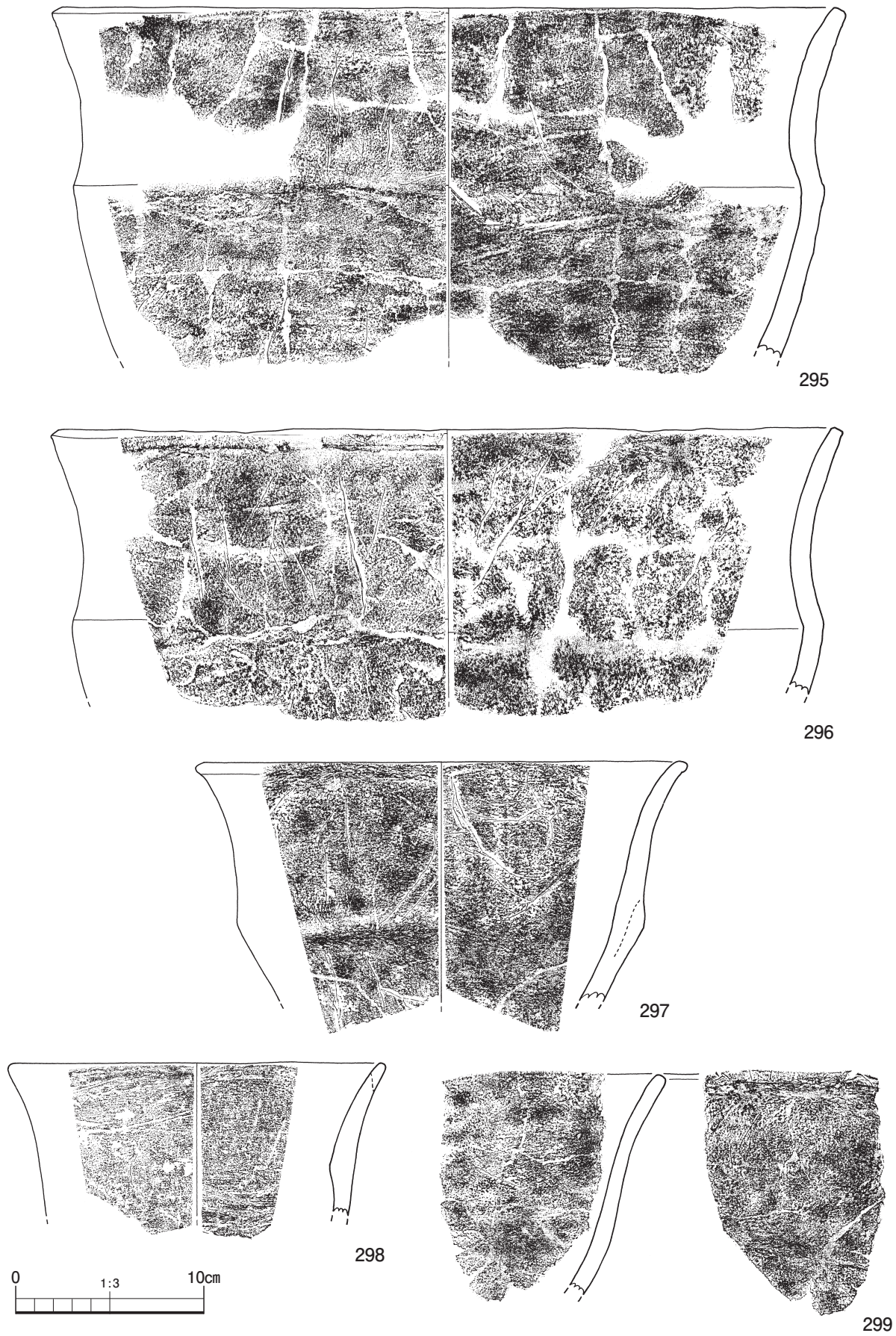
293



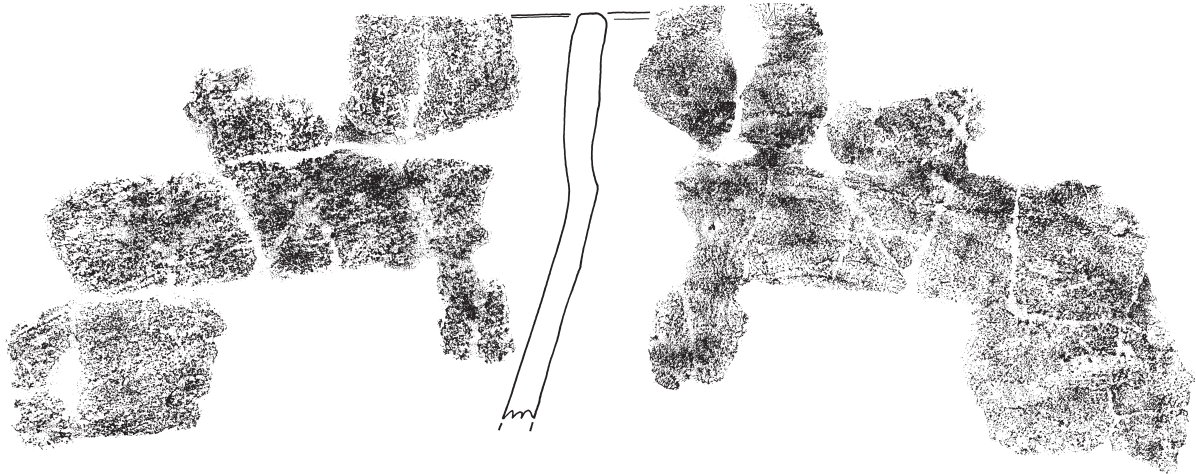
294



第46図 C区谷状の窪み出土土器実測図⑧ (1/3)



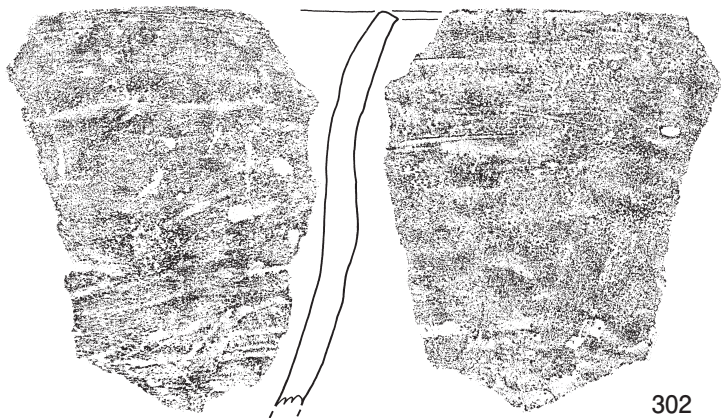
第47図 C区谷状の窪み出土土器実測図⑨ (1/3)



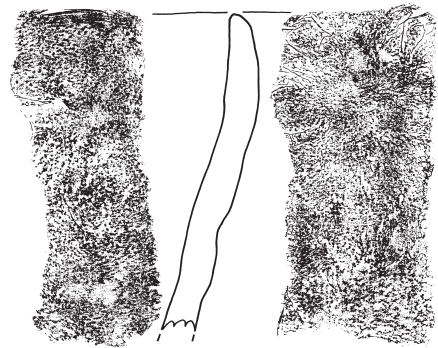
300



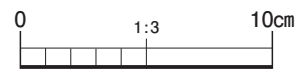
301



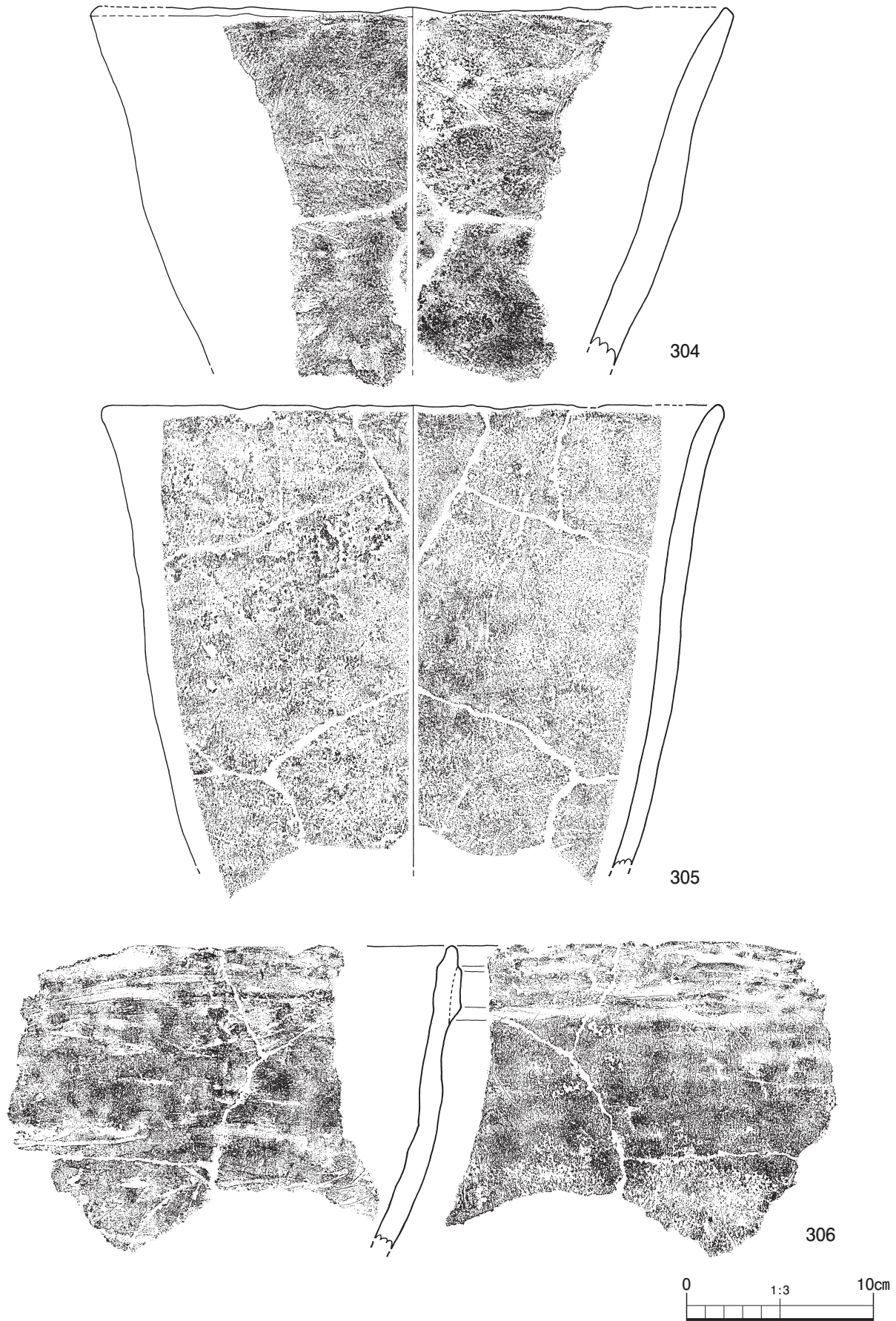
302



303



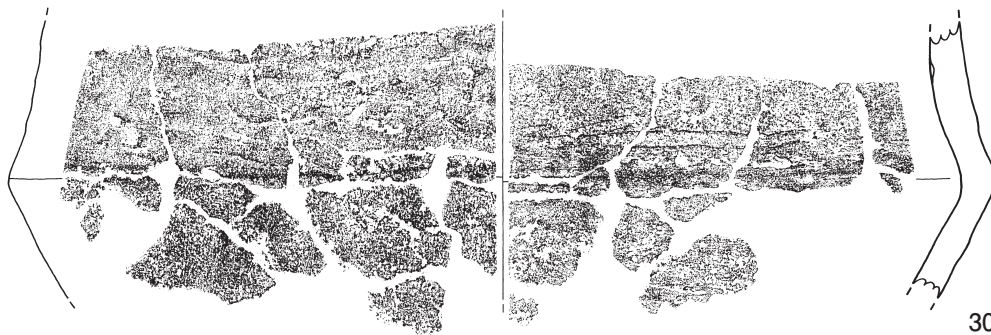
第48図 C区谷状の窪み出土土器実測図⑩ (1/3)



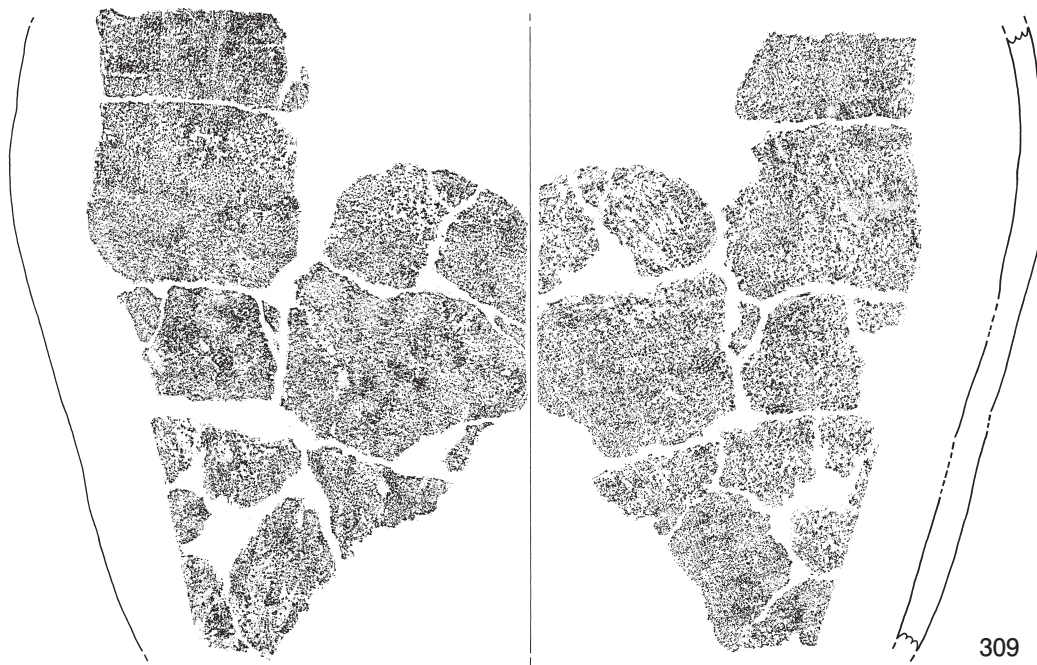
第49図 C区谷状の窪み出土土器実測図⑪ (1/3)



307



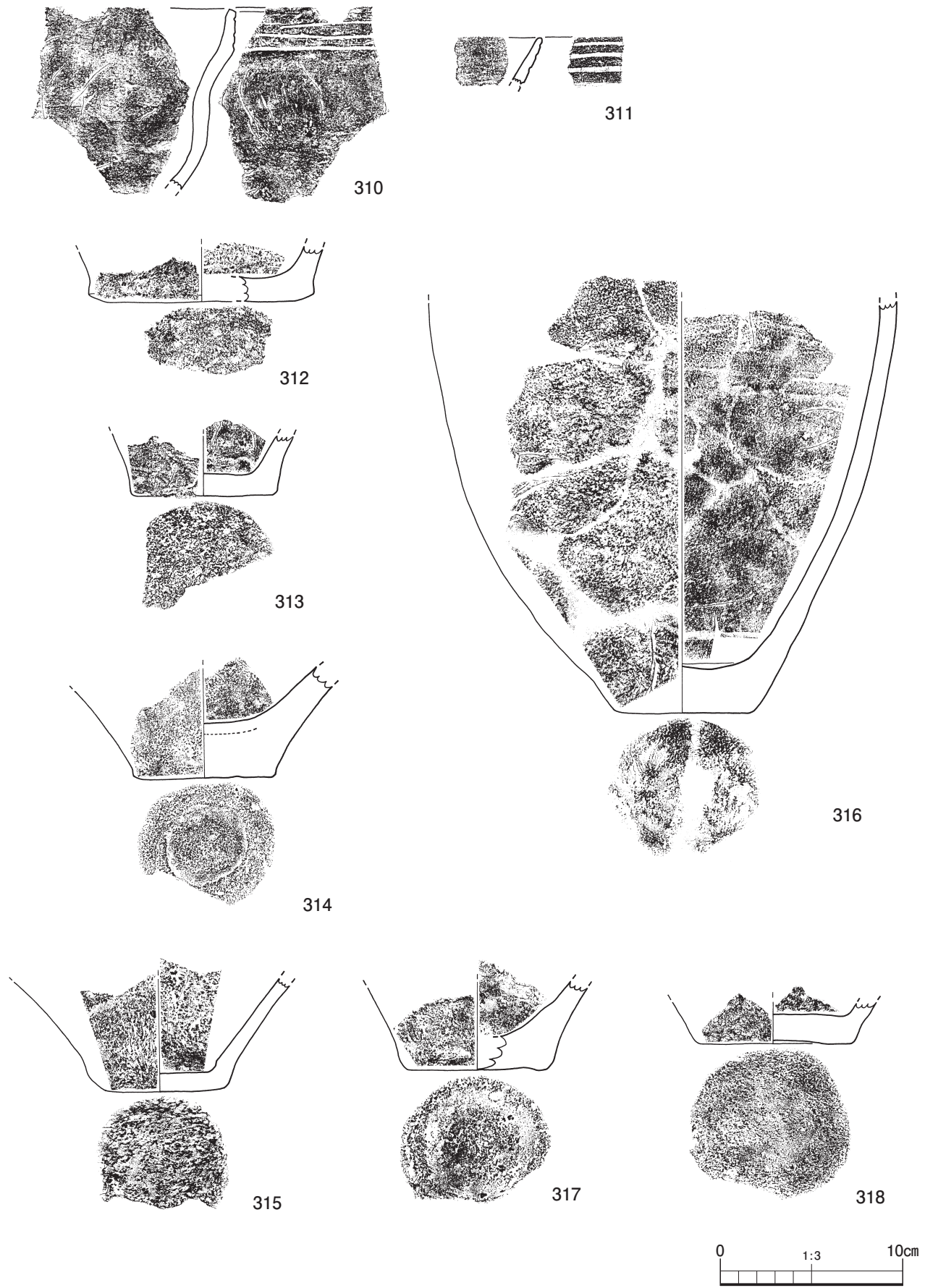
308



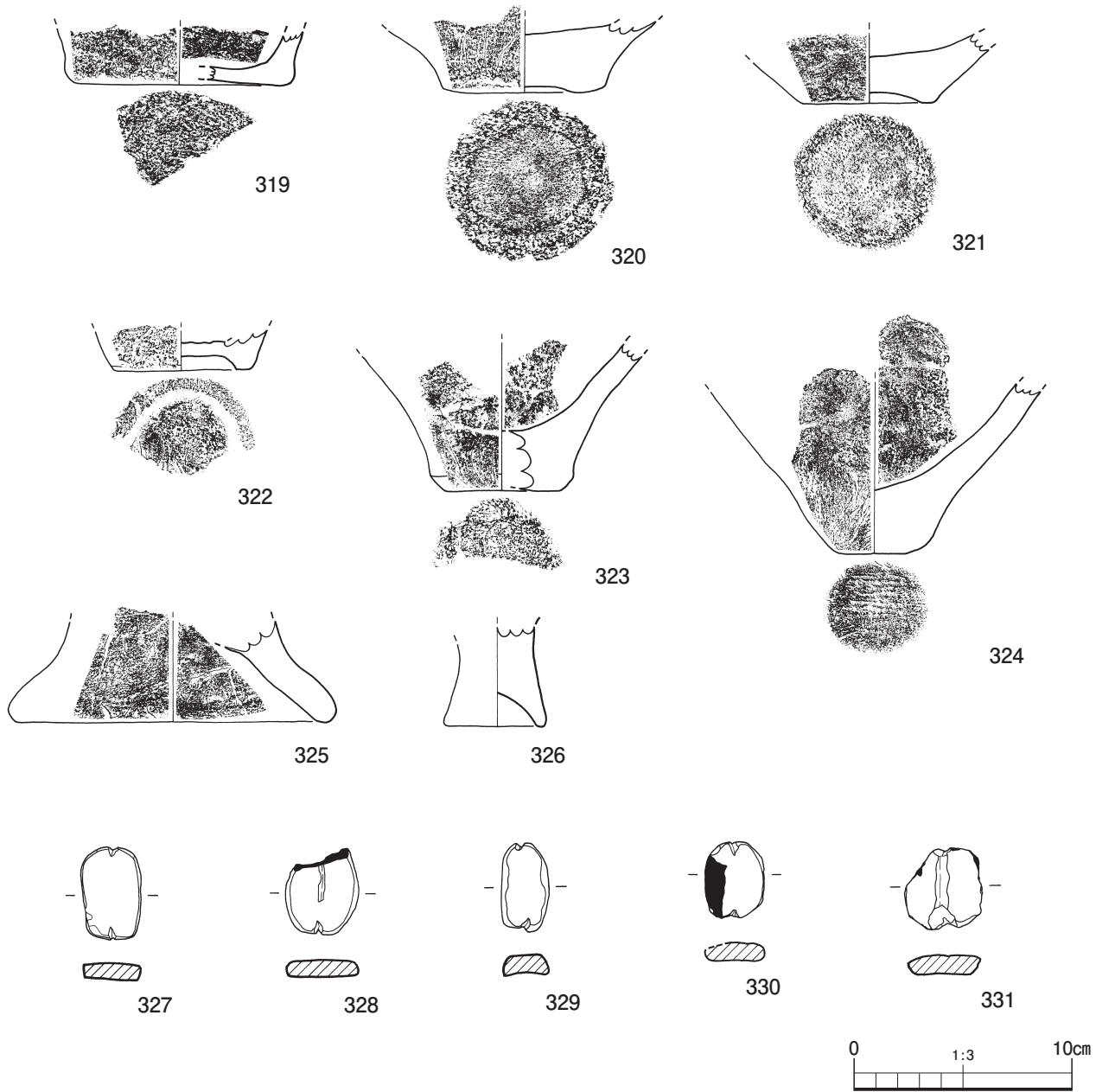
309



第50図 C区谷状の窪み出土土器実測図⑫ (1/3)



第51図 C区谷状の窪み出土土器実測図^⑬ (1/3)



第52図 C区谷状の窪み出土土器実測図^⑭ (1/3)

第10表 C区出土土器観察表①

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量(cm) ():復元			色 調		焼成	調整 文様		胎土(上:mm 下:量)					備考	実測 番号	
				口径	底径	器高	外面	内面		外面	内面	A	B	C	D	E			
P50 第37図	204	SE 4	須恵器 坏	—	—	—	5Y5/4 オリーブ	2.5Y5/1 灰	良好	回転ナデ	回転ナデ					微 僅	須恵器	465	
	205	SE 1	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR4/1 赤灰	5YR4/2 灰褐	良好	ナデ、刺突文、貼付 突帯	ナデ	2 少	1 多	1 僅			市来 貼付 突帯あり	462	
	206	SE 4	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/1 褐灰	5YR4/1 褐灰	良好	条痕後ナデ	条痕後ナデ	1 少	1 僅				中岳Ⅱ 内 面に黒斑あり	461	
	207	SE 4	縄文土器 深鉢	—	—	—	N4/0 灰	10YR4/1 褐灰	良好	条痕の後ナデ、凹線 文、三日月形の凹線 文	条痕の後工具に よるナデ	2 少	1 多				中岳Ⅱ 内 外面に黒斑 あり	463	
	208	C SZ I Ⅳ	土師 鉢	(13)	—	—	2.5Y6/2 灰黄	10YR6/2 灰黄褐	良	ナデ	布痕		1 多				布痕	470	
	209	SE 1	土師 鉢	(13)	—	—	5YR7/4 にぶい橙	2.5YR6/6 橙色	良	ナデ	ナデ	1 僅	微 少				布痕 接59	469	
	210	C SZ I Ⅲ	土師 布痕	—	—	—	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ナデ	布痕	微 僅					布痕	468	
	211	SZ 1	土師 布痕	—	—	—	2.5Y6/1 黄灰	10YR5/2 灰黄褐	良	ナデ	布痕		1 多				布痕	467	
	212	SZ 1	土師 鉢	—	—	—	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	良好	ナデ	布痕	1 少	微 多				布痕	471	
	213	SZ 1	縄文土器 深鉢	(24.3)	—	—	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR6/3 にぶい褐	良好	指オサエ、刺突文、 ナデ	ナデ	4 多	1 微				納屋向	472	
	214	SZ 1	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/3 褐	5YR5/3 にぶい赤褐	良好	ナデ、刺突文、凹線 文	条痕の後ナデ	2 少	1 僅	1 僅			市来	464	
	215	SZ 1	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	条痕、貝殻刺突文	条痕後ナデ	1 少	1 僅	2 少			市来 外面 に黒斑あり	466	
	P52 第39図	216	C II 層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR6/3 にぶい褐	10YR6/1 褐灰	良	ナデ、貝殻刺突文、 凹線文	ナデ	2 僅	微 少				岩崎上層	558
		217	C II 層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	キザミ、凹線文、条 痕後ナデ、刺突文	条痕後ナデ	1 多	微 僅				市来 内外 面に黒斑あり	542
		218	C II 層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	キザミ、凹線文、刺 突文、ナデ	条痕後ナデ	微 僅	微 僅				市来	547
219		C II 層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR4/2 灰褐	5RP3/1 暗紫灰	良好	条痕	刺突文、凹線文	1 少	微 僅				市来	532	
220		C II 層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	貝殻刺突文、条痕後 ナデ	条痕後ナデ	1 少	微 多	2 僅			市来 外面 に突帯あり	455	
221		C II 層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	貝殻刺突文、凹線文、 刺突文、ナデ	条痕	1 僅	微 僅				市来	545	
222		SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	5YR4/2 灰褐	良好	貼付突帯、条痕後ナ デ、貝殻刺突文、ナ デ	条痕後ナデ	微 僅	1 僅	1 僅			市来	511	
223		C II 層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	竹管文、ナデ	ナデ	2 少	微 僅				市来	548	
224		SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR4/3 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	貝殻刺突文、凹線文、 条痕後ナデ	ナデ、指オサエ	2 少	微 少				市来	453	
225		SZ2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	刺突文、黒斑	ナデ	1 少	1 少				市来	518	
226		SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR4/3 にぶい赤褐	7.5YR6/4 にぶい橙	不良	条痕の後ナデ、凹線 文、貼付突帯(貝殻 刺突文)、ナデ	ナデ	6 多	1 多				市来 外面 に黒斑あり 口唇部にキ ザミ	506	
227		SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	ナデ、押し引き	条痕の後ナデ	2 少	1 多				市来 突帯 あり	475	
228		C II 層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR4/2 灰褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	条痕の後ナデ、凹線 文、突帯に刺突文	条痕の後ナデ	3 多	微 少				市来	536	
229		SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR4/2 灰赤	2.5YR6/4 にぶい橙	良好	刺突文、凹線文	ナデ	微 少	1 少	1 多			市来	513	

第11表 C区出土土器観察表②

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量(cm) ():復元			色 調		焼成	調整 文様		胎土(上:mm 下:量)					備考	実測 番号
				口径	底径	器高	外面	内面		外面	内面	A	B	C	D	E		
P52 第39図	230	SZ 2	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	貝殻押し引き、貼付突 帯、条痕後ナデ	条痕後ナデ		微 僅				市来	457
			深鉢															
	231	SZ 2	縄文土器	—	—	—	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ナデ、凹線文、押し 引き文、刺突文(工具 による)	ナデ	2 少	1 少	1 僅			市来 刺突 文あり	456
			深鉢															
	232	攪乱坑	縄文土器	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	2.5YR5/4 にぶい赤褐	良	ナデ、工具による刺 突文、凹線文、貝殻 刺突文	ナデ	3 多	微 多	2 僅			市来	512
			深鉢															
233	C II層	縄文土器	—	—	—	7.5YR4/1 褐灰	7.5YR4/2 灰褐	良好	条痕の後ナデ、貝殻 刺突文	条痕の後ナデ	1 僅	1 少				市来	529	
		深鉢																
234	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	良好	貝殻刺突文、ナデ	ナデ	3 多	1 少	1 多			丸尾A	521	
		深鉢																
235	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	条痕後ナデ、貝殻刺 突文	条痕後ナデ、ナ デ	3 僅	微 少				丸尾A	493	
		深鉢																
P53 第40図	236	SZ 2	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR6/4 にぶい橙	良好	ナデ、条痕後ナデ、 貝殻刺突文	条痕後ナデ	2 少	微 少				丸尾A	496
			深鉢															
	237	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR5/6 明赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	条痕の後ナデ、条痕	条痕の後ナデ、 条痕	4 少	2 少	1 僅			丸尾B	501
			深鉢															
	238	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	条痕の後ナデ、貝殻 刺突文	条痕の後ナデ	2 少	微 多				丸尾B	473
			深鉢															
239	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	条痕の後ナデ、貝殻 刺突文	ナデ	1 少	1 少				丸尾B 口 唇部にキザ ミ	507	
		深鉢																
240	C II層	縄文土器	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐	5YR5/3 にぶい赤褐	良好	ナデ、条痕、刺突文、 条痕の後ナデ	条痕	5 僅	1 多	1 僅			市来	534	
		深鉢																
P55 第41図	241	SZ 2	縄文土器	(27.2)	—	—	2.5YR5/3 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	ナデ、工具による刺 突文	ナデ	3 少	1 僅			納屋向 接40	452	
			深鉢															
	242	SZ 2	縄文土器	—	—	—	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	良好	ナデ、刺突文	ナデ	6 多	微 少			納屋向	520	
			深鉢															
	243	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/3 にぶい赤褐	良好	凹線文、刺突文、ナ デ	ナデ	5 多	1 少			納屋向	503	
			深鉢															
	244	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙		刺突文	ナデ	1 少	1 少			納屋向	516	
			深鉢															
	245	SZ 2	縄文土器	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	ナデ、刺突文	ナデ	4 多	1 僅			納屋向 外 面に黒斑あ り	495	
			深鉢															
246	C II層	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	ナデ、刺突文	条痕後ナデ	2 多	微 僅			納屋向	543		
		深鉢																
247	SZ 2	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	5YR6/4 にぶい橙	良好	貝殻刺突文、ナデ	ナデ	2 僅	微 少			納屋向	505		
		深鉢																
248	SZ 2	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	2.5YR4/2 灰赤	良好	条痕後ナデ	条痕後ナデ、凹 線文、ナデ	1 僅				納屋向 内 外面にスス 附着	514		
		深鉢																
249	SZ 2	縄文土器	—	—	—	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR6/3 にぶい褐	良好	凹線文、キザミ、刺 突文、ナデ	ナデ	1 僅	2 少	1 僅		納屋向 口 唇部にキザ ミ	519		
		深鉢																
250	SZ 2	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良	ナデ、貝殻刺突文	条痕の後ナデ	6 少	微 僅			納屋向 内 面に黒斑あ り	504		
		深鉢																
P56 第42図	251	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	貝殻刺突文、ナデ	ナデ	4 多	1 多	1 僅		納屋向	459	
			深鉢															
	252	SZ 2	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ナデ、指ナデ、貝殻 刺突文	条痕の後ナデ、 指ナデ	4 少	微 僅			納屋向 内 面に黒斑あ り	508	
			深鉢															
	253	SZ2	縄文土器	(24.2)	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐		ナデ、凹線文、刺突 文	ナデ	1 僅	1 多			納曾	454	
深鉢																		
254	SZ 2	縄文土器	—	—	—	10YR4/2 灰黄褐	5YR5/3 にぶい赤褐	良好	ナデ、凹線文	ナデ、条痕	2 僅	1 多			納曾 内外 面に黒斑あ り	517		
		深鉢																
255	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR4/3 にぶい赤褐	5YR4/1 褐灰	良好	ミガキ、凹線文	ミガキ	1 僅	1 少			納曾	522		
		深鉢																

第12表 C区出土土器観察表③

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量(cm) ():復元			色 調		焼成	調整 文様		胎土(上:mm 下:量)					備考	実測 番号	
				口径	底径	器高	外面	内面		外面	内面	A	B	C	D	E			
P57 第43図	256	C II層	縄文土器	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐	7.5YR5/2 灰褐		凹線文、ナデ	ナデ		1					納曾	535
			深鉢											少					
	257	C II層	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR4/1 褐灰	良好	ナデ、凹線文	ナデ		3	1				納曾 内外 面に黒斑あり	537
			深鉢										少	少					
	258	SZ 2	縄文土器	—	—	—	2.5YR4/2 灰赤	5YR4/3 にぶい赤褐	良好	ナデ、凹線文	磨滅により不明		2	1				納曾 内外 面に黒斑あり	458
			深鉢										少	少					
	259	C II層	縄文土器	—	—	—	7.5YR4/1 褐灰	7.5YR4/1 褐灰	良好	条痕の後ナデ、ナデ、 凹線文	ナデ		2	1				納曾 内面 に黒斑あり	540
			深鉢										僅	少					
	260	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	10YR6/3 にぶい黄橙	良好	ナデ、2列の列点文	ナデ		1					納曾	478
			深鉢											微					
	261	SZ 2	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/4 にぶい褐	2.5YR6/6 橙色	良好	ナデ、刺突文	ナデ		2	1				納曾	479
			深鉢										僅	多					
	262	SZ 2	縄文土器	(26.8)	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	ナデ、ミガキ、凹線 文、刺突文	ナデ		5	1				納曾 外面 に炭化物あり	449
			深鉢										多	少					
	263	SZ 2	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	ナデ、凹線文、刺突 文	ナデ		2	1				納曾	480
			深鉢										少	少					
	264	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	10R5/2 灰赤	良好	ナデ、短い凹線文?	ナデ		2					納曾	481
			深鉢										少						
265	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR6/6 橙色	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ナデ、凹線文	条痕の後ナデ		2	1				納曾	483	
		深鉢										多	多						
266	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ナデ、凹線文	ナデ		2					納曾	484	
		深鉢										僅	少						
267	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ナデ、凹線文?	ナデ		4	2				納曾 口唇 部にキザミ	509	
		深鉢										多	少						
268	SZ 2	縄文土器	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR5/2 灰褐	良	ナデ、凹線文	ナデ		3	2				納曾 内外 面に黒斑あり	515	
		深鉢										僅	僅						
269	C II層	縄文土器	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR3/1 黒褐	良好	ナデ、凹線文、ハ ート型の凹線文	ナデ		1	2				納曾	557	
		深鉢										少	多						
270	C II層	縄文土器	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR6/4 にぶい橙	良好	ナデ、凹線文	条痕			2	2			納曾	556	
		深鉢											少	僅					
271	C II層	縄文土器	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/3 にぶい赤褐	良好	ナデ、凹線文	ナデ		4					納曾	551	
		深鉢										多	多						
272	C II層	縄文土器	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR6/4 にぶい橙	良好	刺突文、凹線文、線 刻	ナデ		1					納曾	554	
		深鉢										少	僅						
273	C II層	縄文土器	—	—	—	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR5/2 灰褐	良好	ナデ、凹線文、線刻	ナデ		2	1	1			納曾 内面 に黒斑あり	553	
		深鉢										僅	少	僅					
P58 第44図	274	SZ 2	縄文土器	(21)	—	—	5YR4/3 にぶい赤褐	7.5YR4/2 灰褐	良好	ナデ、棒状刺突文、 凹線文、指ナデ	ナデ		3				中岳 II 外面 に炭化物あり 内外面に黒 斑あり	431	
			深鉢										僅	多	少				
	275	C II層	縄文土器	(19.6)	—	—	5YR5/2 灰褐	10YR4/1 褐灰	良好	ナデ、三日月型凹線 文、凹線文	ミガキ?		1				中岳 II 外 面に黒斑あり	555	
			深鉢										僅	僅					
	276	攪乱坑	縄文土器	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐	7.5YR4/1 褐灰	良	ナデ、凹線文、三日 月状凹線文有り	ナデ		3	2				中岳 II 外 面にスス付 着	510
深鉢												少	多						
277	C II層	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐	10YR5/2 灰黄褐	良好	条痕後ナデ、凹線文	ナデ		2					中岳 II	550	
		深鉢										僅	少						
278	SZ 2	縄文土器	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	ナデ、凹線文	ナデ		3	1				中岳 II	446	
		深鉢										多	多						
P59 第45図	279	C II層	縄文土器	—	—	—	10YR5/1 褐灰	10YR5/2 灰黄褐	良好	条痕、ナデ	条痕、ナデ		6	2				中岳 II	562
			深鉢										少	僅					
	280	C II層	縄文土器	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	10YR3/1 黒褐	良好	条痕後ナデ、凹線文、 貼付突帯	条痕後ナデ		1					中岳 II 外 面に炭化物 あり	524
深鉢												僅	少						
281	C II層	縄文土器	—	—	—	5YR4/1 褐灰	5YR5/3 にぶい赤褐	良好	条痕後ナデ、凹線文、 貼付突帯	条痕後ナデ							中岳 II 外 面にスス付 着	531	
		深鉢											微						

第13表 C区出土土器観察表④

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量(cm) ():復元			色 調		焼成	調整 文様		胎土(上:mm 下:量)					備考	実測 番号
				口径	底径	器高	外面	内面		外面	内面	A	B	C	D	E		
P59 第45図	282	SZ 2	縄文土器	—	—	—	10YR3/2 黒褐	2.5YR4/2 灰赤	良好	刺突文(棒状の道具 による)、ナデ	ナデ	2 少	1 多			中岳Ⅱ 内 面に黒斑あり	444	
			深鉢	—	—	—	7.5YR4/1 褐灰	7.5YR4/1 褐灰	良好	凹線文、ナデ	ナデ、指オサエ	3 多	1 少			中岳Ⅱ	527	
	284	CⅡ層	縄文土器	—	—	—	2.5YR4/1 赤灰	7.5YR4/1 褐	良好	ミガキ、凹線文、ナ デ	ナデ	2 僅	1 少	1 僅		中岳Ⅱ	530	
			深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	ナデ	条痕	3 僅	微 僅			中岳Ⅱ 外 面に黒斑あり 接55	549	
	286	CⅡ層	縄文土器	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	10YR4/1 褐灰	良好	条痕後ナデ、凹線文	条痕後ナデ	2 僅	微 僅			中岳Ⅱ 内面 にスス附着 三日月状の回 線文あり	525	
			深鉢	—	—	—	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	良好	ナデ、凹線文	ナデ	3 僅	1 少			中岳Ⅱ	546	
	288	CⅡ層	縄文土器	(17.7)	—	—	10R4/1 暗赤灰	10YR4/1 褐灰	良好	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	1 多	1 多			黒色磨研模 倣	430	
			浅鉢	—	—	—	5YR4/1 褐灰	10YR6/2 灰黄褐	良好	ナデ、凹線文	ナデ	1 僅	微 多			上加世田	538	
P60 第46図	290	CⅡ層	縄文土器	(40.6)	—	—	7.5YR4/1 褐灰	7.5YR5/2 灰褐	良好	ナデ	ナデ	1 僅	1 僅	微 多		無刻目突帯 文 接56	427	
			深鉢	(34.2)	—	—	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR6/3 にぶい褐	良好	ナデ	ナデ	2 少	2 多	2 多		無刻目突帯 文 内外面 に黒斑あり	523	
	292	CⅡ層	縄文土器	(37.6)	—	—	7.5YR6/3 にぶい褐	10YR6/2 灰黄褐	良	ナデ、指ナデ	ナデ、指ナデ	2 僅	微 僅			無刻目突帯 文 内面に 黒斑あり	544	
			深鉢	—	—	—	10YR5/1 褐灰	7.5YR5/2 灰褐	良好	ナデ	ナデ	2 少	1 僅			無刻目突帯 文 内外面 に黒斑あり	432	
	294	CⅡ層	縄文土器	—	—	—	10YR5/1 褐灰	10YR5/1 褐灰	良好	ナデ	条痕の後ナデ	4 少	1 多	1 多		無文	438	
P61 第47図	295	CⅡ層	縄文土器	(41)	—	—	5YR5/2 灰褐	5YR5/2 灰褐	良好	ナデ	ナデ	2 多	微 少	微 僅		無文 外面 にスス附着 外面に炭化 物あり	450	
			深鉢	(40.8)	—	—	7.5YR4/2 灰褐	10YR6/2 灰黄褐	良好	ナデ	ナデ	4 多	微 少	2 多		無文 外面 に炭化物あり	445	
	297	CⅡ層	縄文土器	(24.9)	—	—	10YR5/2 灰黄褐	5YR5/1 褐灰	良	ナデ	ナデ	3 多	1 多			無文 内外面 に黒斑あり	552	
			深鉢	(19.6)	—	—	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	ナデ	ナデ	3 僅	微 僅			無文 内外面 に黒斑あり 内面にスス付 着 接52	564	
	299	CⅡ層	縄文土器	—	—	—	10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	良	ナデ	ナデ	6 多	2 多			無文 外面 に炭化物あり	560	
P62 第48図	300	CⅡ層	縄文土器	—	—	—	10YR6/2 灰黄褐	7.5YR6/2 灰褐	良好	条痕後ナデ	条痕後ナデ	1 多	微 僅			無文 外面 にスス附着 外面に炭化 物あり	447	
			深鉢	—	—	—	7.5YR4/1 褐灰	5YR4/1 褐灰	良好	ナデ	ナデ	3 多	1 僅			無文 外面 に炭化物あり	429	
	302	CⅡ層	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/1 褐灰	7.5YR5/2 灰褐	良好	条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	3 少	1 少	1 僅		無文 外面 に黒斑あり	433	
			深鉢	—	—	—	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/2 灰黄褐	良	ナデ	ナデ	1 多	1 多			無文	541	
P63 第49図	304	CⅡ層	縄文土器	(33.3)	—	—	7.5YR5/2 灰褐	5YR7/1 明褐灰	良好	ナデ	ナデ		2 多			無文	442	
			深鉢	(32.6)	—	—	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/1 灰白	良	ナデ	ナデ	3 少	1 多			無文 外面 に炭化物付 着 内外面 に黒斑あり	440	
	306	CⅡ層	縄文土器	—	—	—	5YR7/1 明褐灰	7.5YR4/2 灰褐	良好	ナデ	ナデ		2 多			無文 外面 に炭化物付 着	448	
P64 第50図	307	CⅡ層	縄文土器	—	—	—	10YR5/1 褐灰	10YR5/1 褐灰	良	ナデ	ナデ	6 多	1 多	2 僅		無文 外面 に黒斑あり	434	

第14表 C区出土土器観察表⑤

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量(cm) ():復元			色 調		焼成	調整 文様		胎土(上:mm 下:量)					備考	実測 番号	
				口径	底径	器高	外面	内面		外面	内面	A	B	C	D	E			
P64 第50図	308	C II層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	良好	ナデ	ナデ	5 多	1 多	1 多			無文	439	
	309	C II層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR6/2 灰褐	10YR5/1 褐灰	良好	ナデ	ナデ	3 多	1 多	1 僅			無文 内外 面に黒斑あり 接60	435	
P65 第51図	310	C II層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/1 褐灰	10YR4/1 褐灰		凹線文、ナデ	ナデ	2 多	微 僅	微 僅				528	
	311	C II層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR3/1 黒褐	5YR4/1 褐灰	良好	ナデ、凹線文	ナデ		微 多					526	
	312	C II層	縄文土器 深鉢	—	(10)	—	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	ナデ、指オサエ	ナデ	2 多	1 僅				底部	428	
	313	C II層	縄文土器 深鉢	—	(7.4)	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	ナデ	ナデ	1 少	微 僅				底部	566	
	314	C14	縄文土器 深鉢	—	(7.6)	—	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y6/1 黄灰	良好	ナデ	ナデ	2 少	1 少	1 僅			底部 底部 に円形の浅 い溝あり	423	
	315	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	(6.55)	—	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良	ナデ	ナデ	7 多	2 多				底部 内面 に黒斑あり	494	
	316	C II層	縄文土器 深鉢	—	(7.2)	—	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR5/2 灰褐	良好	ナデ	ナデ	4 少	1 多	1 僅			底部 接56	426	
	317	C II層	縄文土器 深鉢	—	(7.4)	—	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/1 褐灰	良好	ナデ	ナデ	5 多	2 多	1 僅			底部	563	
	318	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	8.1	—	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良	ナデ	ナデ	7 少	微 僅	1 僅			底部	497	
	319	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	(9.4)	—	7.5YR5/3 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良	ナデ、指ナデ	ナデ	2 少	微 僅	1 僅			底部 外面 に黒斑あり	499	
P66 第52図	320	C II層	縄文土器 深鉢	—	7.4	—	7.5YR6/3 にぶい褐	10YR6/2 灰黄褐	良好	ナデ	ナデ	2 少	1 少	1 少			底部	561	
	321	C II層	縄文土器 深鉢	—	5.95	—	10YR6/2 灰黄褐	10YR5/1 褐灰	不良	ナデ	ナデ	5 多	3 多	2 僅			底部	567	
	322	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	(6)	—	7.5YR7/3 にぶい橙	10YR5/2 灰黄褐	良	ナデ	工具によるナデ	1 少	微 多				底部	425	
	323	C II層	縄文土器 深鉢	—	(5.1)	—	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR3/1 黒褐	良好	ナデ	ナデ	2 多	1 僅	1 僅			底部 内面 に炭化物あり	565	
	324	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	4	—	7.5YR5/3 にぶい褐	10R4/2 暗赤灰	良好	ナデ	ナデ	2 僅	1 少				底部 ケズ リ痕?	424	
	325	SZ 2	縄文土器 台付鉢or皿	—	(14.2)	—	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR6/4 にぶい橙	良好	ナデ	ナデ	2 少	1 少				内面に黒斑 あり	500	
	326	C II層	縄文土器 台付鉢or皿	—	(4.4)	—	N6/0 灰	—	良好	ナデ		3 多	1 多					576	
	327	C II層	土鉢	—	—	—	10YR6/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	良好	ナデ	ナデ	2 少	1 少	1 僅			内面に黒斑 あり	580	
	328	C II層	土鉢	—	—	—	10YR6/2 灰黄褐	10YR7/2 にぶい黄橙		ナデ、工具痕	ナデ	2 多		1 少					581
	329	C II層	土鉢	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR4/2 灰褐		ナデ	ナデ	2 少	3 少	1 僅					582
	330	C II層	土鉢	—	—	—	10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y5/1 黄灰	良	ナデ	ナデ		微 僅	微 少					583
	331	SZ 2	土鉢	—	—	—	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	不良	ナデ、工具痕	ナデ	2 少	微 僅						584

第7節 出土石器（第53～58図）

332～338は打製石鏃である。平面形態が正三角形を呈する333、335、二等辺三角形を呈する332、334、336、338がある。

339は石匙である。縦型の石匙で丸味を帯びた刃部を持つ、刃部は両面から加工し作りだしている。

341～357は石錘である。341、342は有溝石錘で、341は小ぶりの角礫を利用し、342は円礫を利用している。ともに利用石材は砂岩である。343は切目石錘で、楕円形で扁平な円礫を利用し、長軸の両端に切目を入れる。切目を設ける際に軸を揃えるためか、一端には3カ所に切目が見られる。利用素材は砂岩である。344～355、367は礫石錘である。楕円形もしくは円形に近い円礫を素材とし、長軸方向の両端に抉りを持つ。抉りは礫の両面から打ち欠いて抉りを作り出している。今回の調査で最軽量のもの344で9.0g、最重量は357で1,113gを測る。利用石材は349が凝灰岩、それ以外が砂岩である。356、358、360は敲石から転用した石錘である。石錘には扁平な円礫を素材とする中、360は厚みのある素材を利用している。利用石材は砂岩である。359は砥石から転用した石錘である。楕円形の扁平な円礫を利用し、片面に擦痕が残る。利用石材は砂岩である。

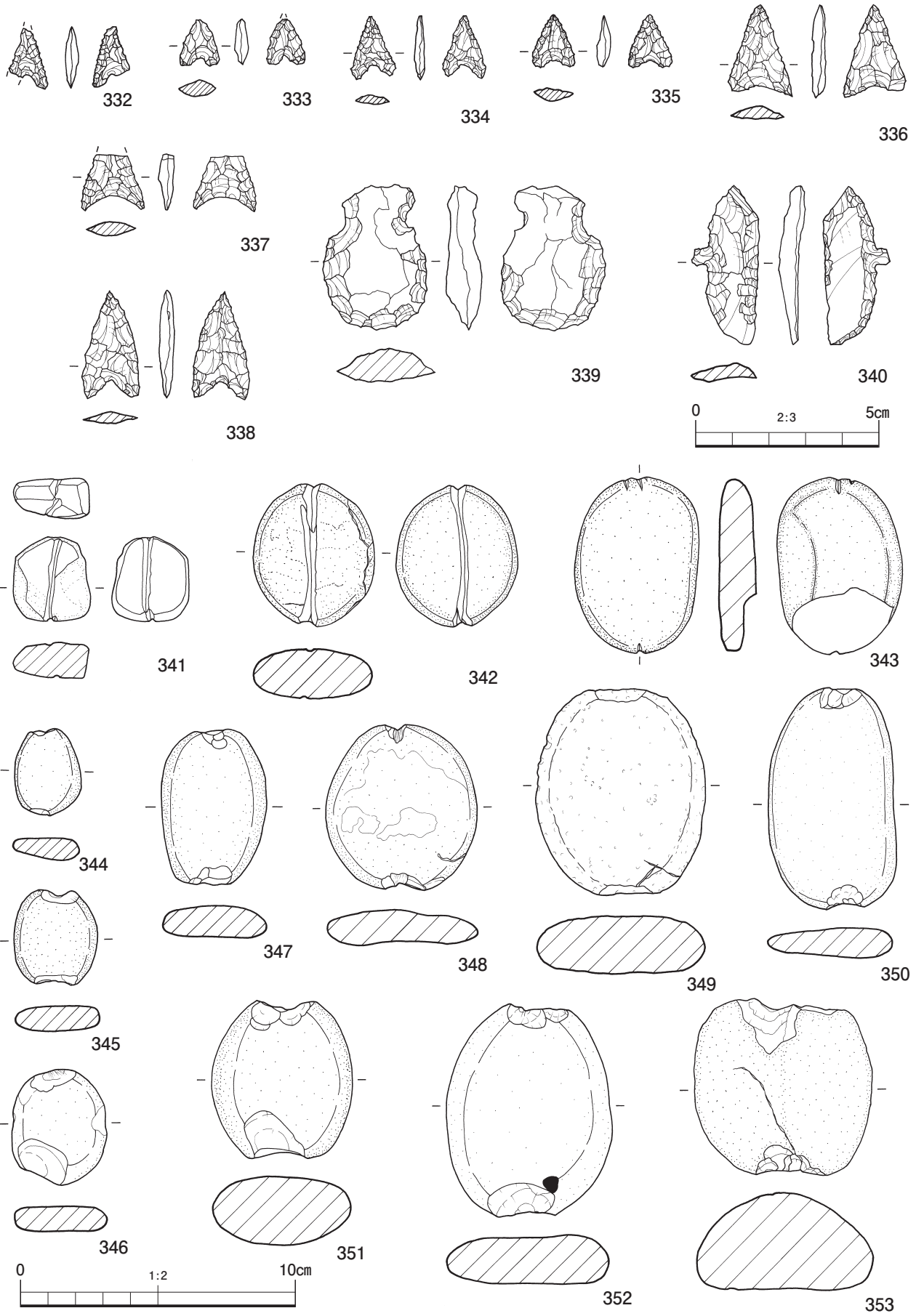
361～379は敲石である。いずれも敲打痕が残るが、一定の規則性は見られず、いずれもあらゆる部分を利用した痕が残るが、370のみは1面のみを何度も使用していたようである。372、374、375は素材が大きいため、石皿として使用していた可能性が高い。379は敲打痕が残る面の裏側に棒状の素材を研磨した深い溝が残る。利用石材は砂岩である。

380、382、383、385、386は砥石である。380、382、383は両面に、385、386は片面に砥ぎ面が見られる。382は全縁に敲打痕が残る。利用石材はいずれも砂岩である。

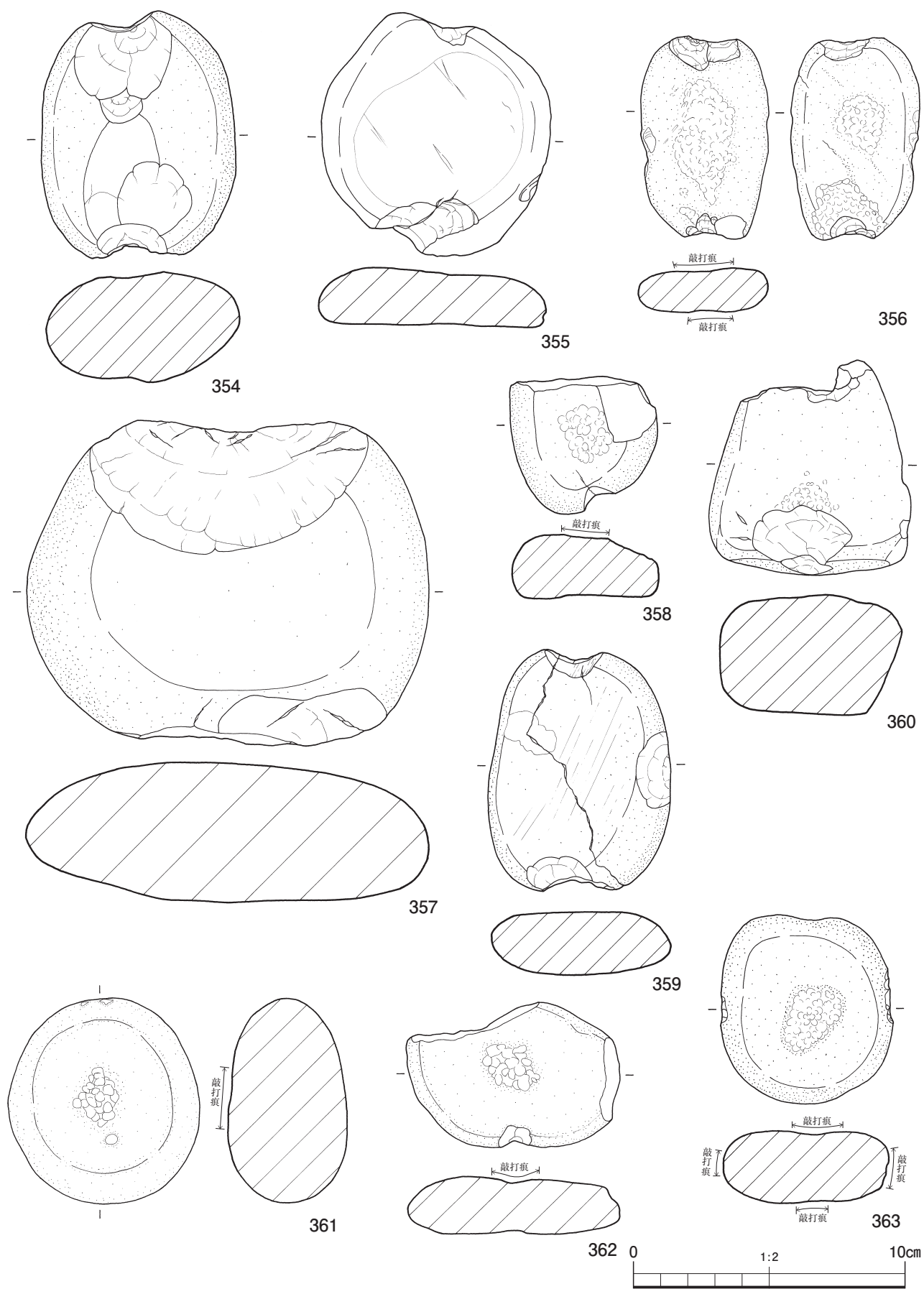
381、384は磨石である。表面全体が平滑であるが、擦痕は残っていない。利用石材は381が尾鈴山酸性凝灰岩で、384が頁岩である。

387～393は磨製石斧である。387は敲打による整形後丁寧に磨かれている。刃部は両面に整形時の擦痕が残る。388は磨製石斧と考えられるが、風化が著しく敲打痕は残っていない。刃部に擦痕が残る。利用石材は砂岩である。390、391、393は整形時の敲打痕が全体に残る。391は刃部、基部の両端が欠損し、393は刃部が欠損する。390は基部に比べ刃部が幅狭であり、石斧とは別の用途が考えられる。利用石材は頁岩である。

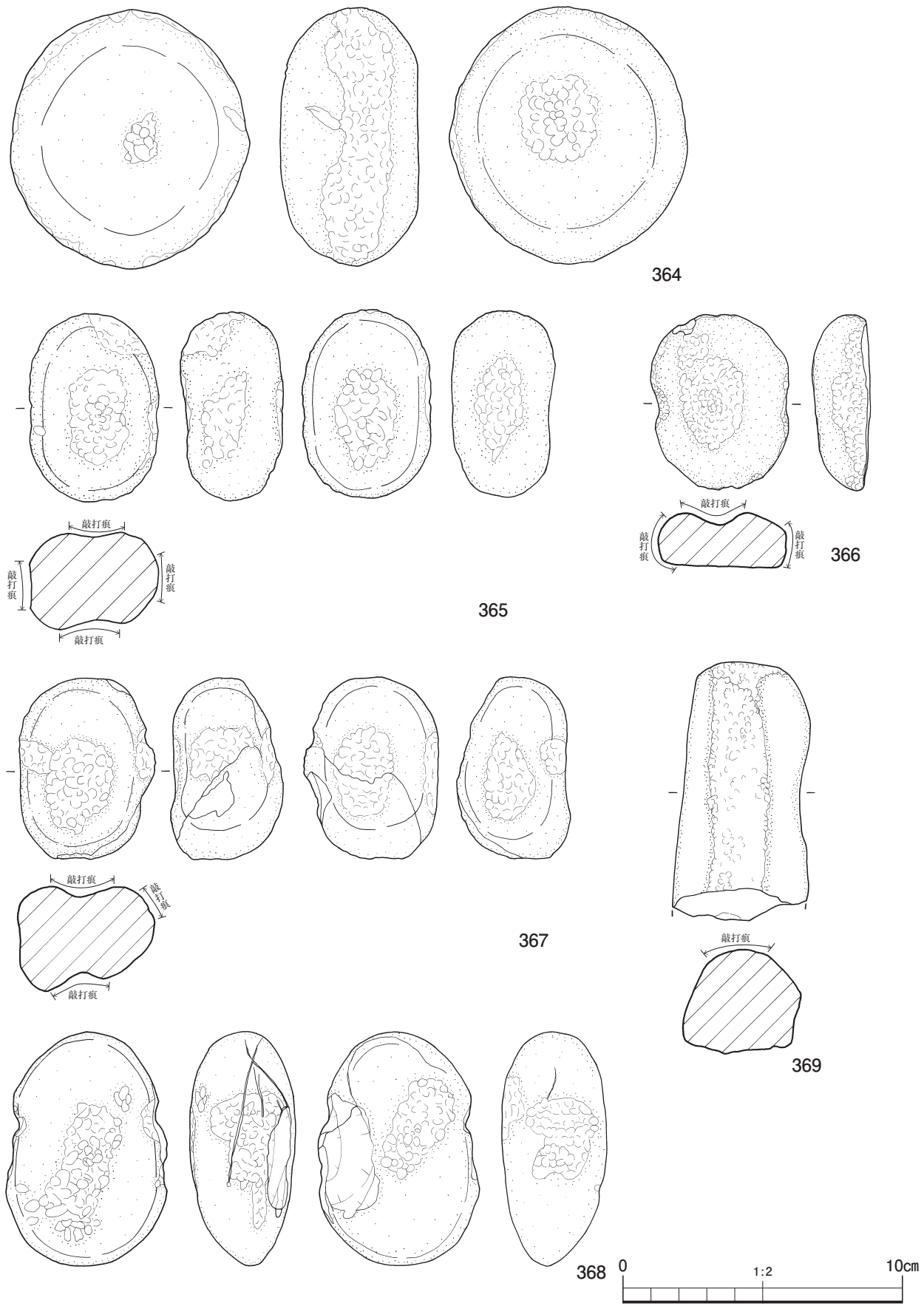
394～407はスクレイパーである。394～399はスクレイパーと分類しているものの、同時に敲打痕が多数見られ、敲石としても利用していたことが考えられる。400は二等辺三角形様の剥片の一側縁のみを刃部として利用している。401～404は断面形が三角形になる一群である。何れも一部に自然面が残る。402、403は直線状の刃部、404、405はカーブを描く刃部、406、407は側縁の一辺を刃部としている。利用石材は400～403は砂岩、404～407は頁岩である。



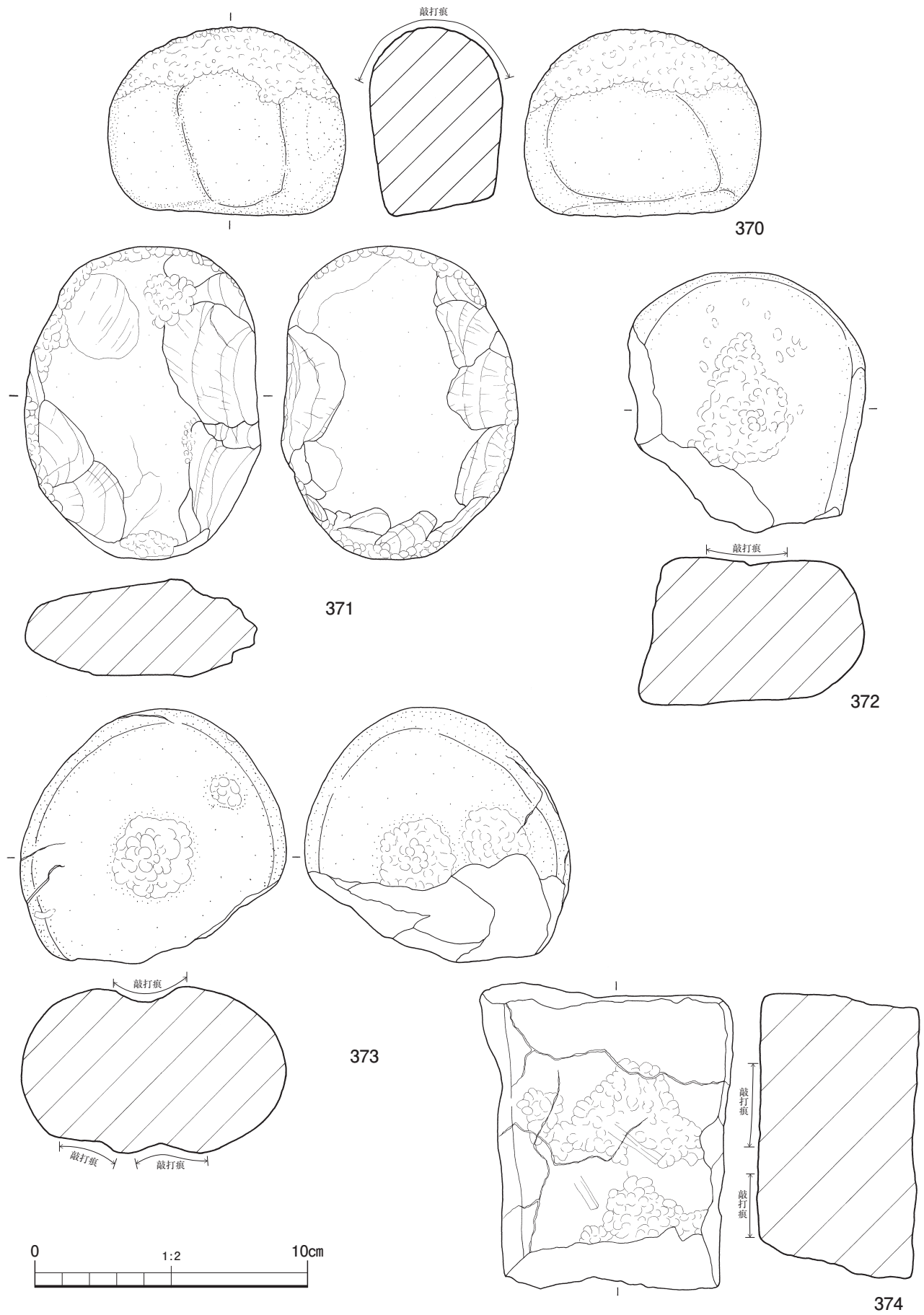
第53図 出土石器実測図① (2/3、1/2)



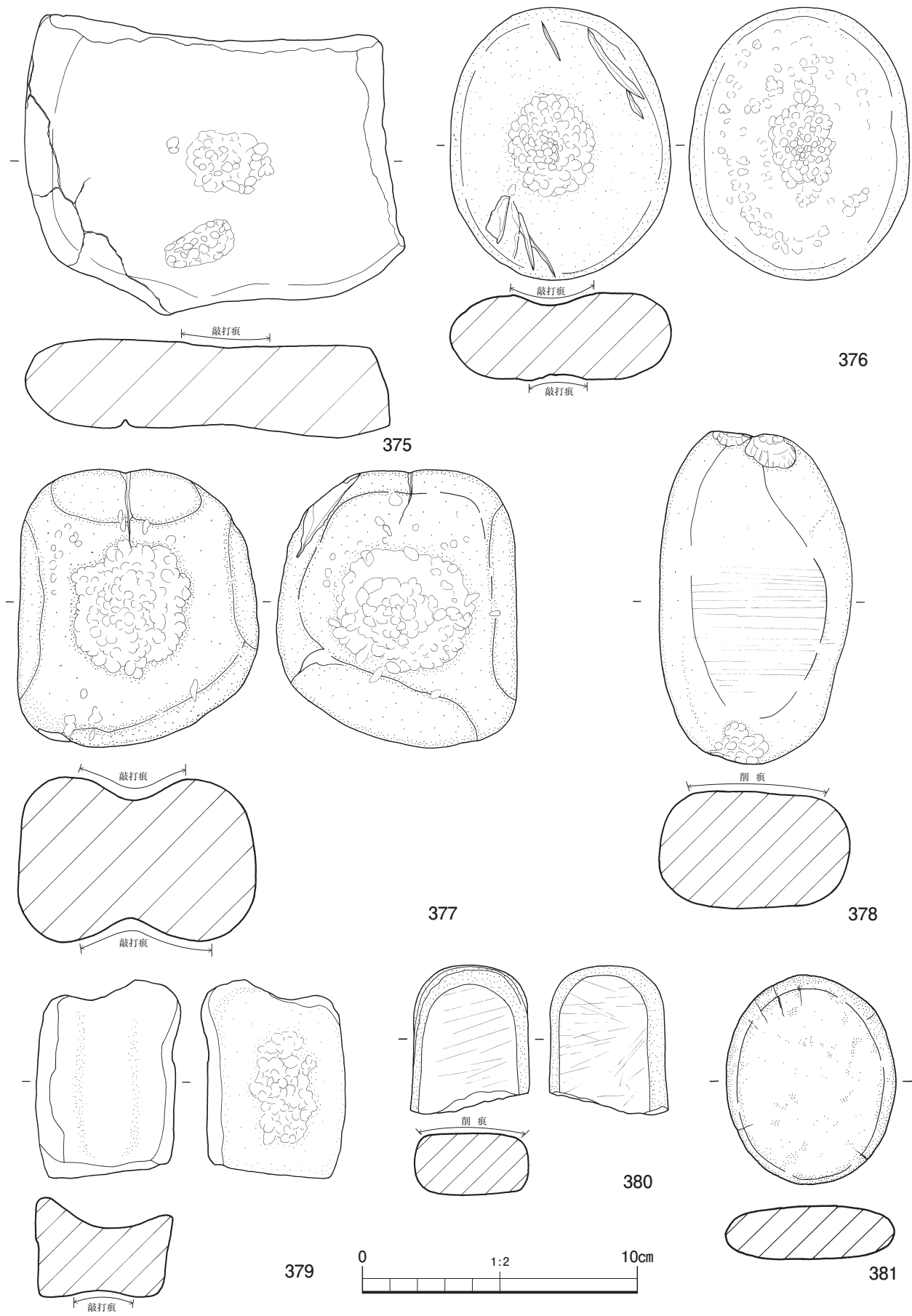
第54图 出土石器实测图② (1/2)



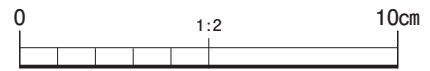
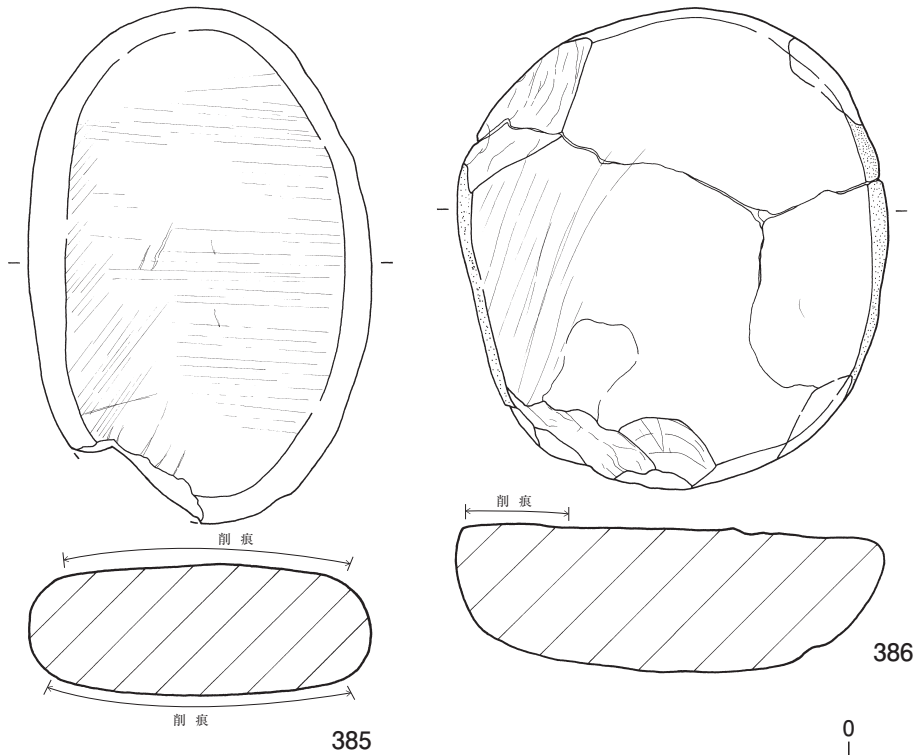
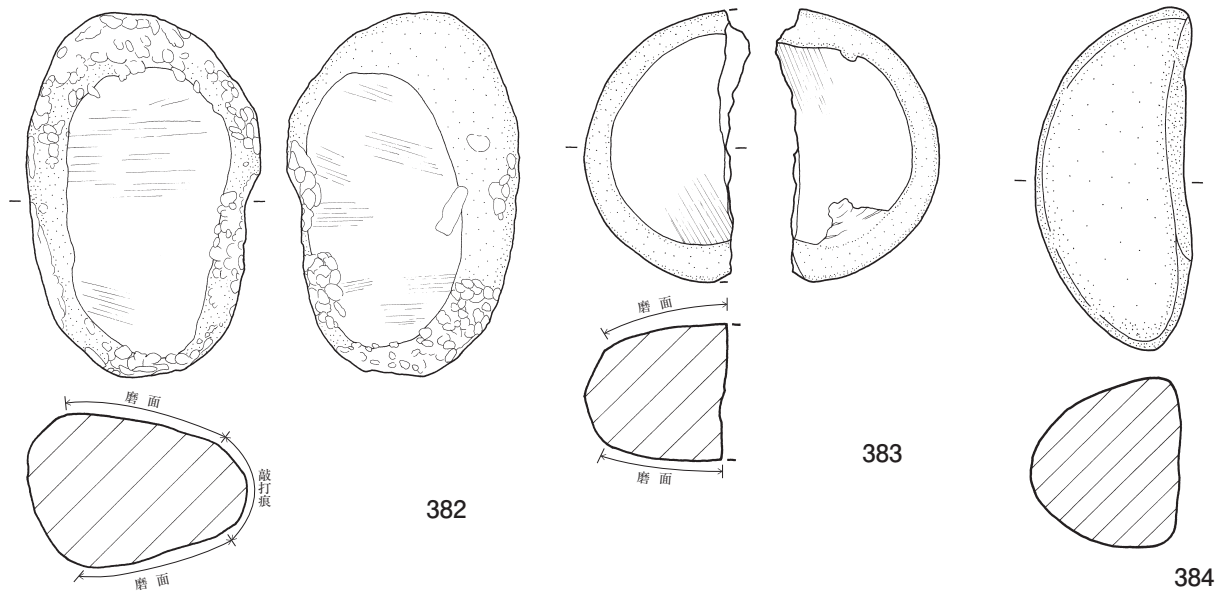
第55図 出土石器実測図③ (1/2)



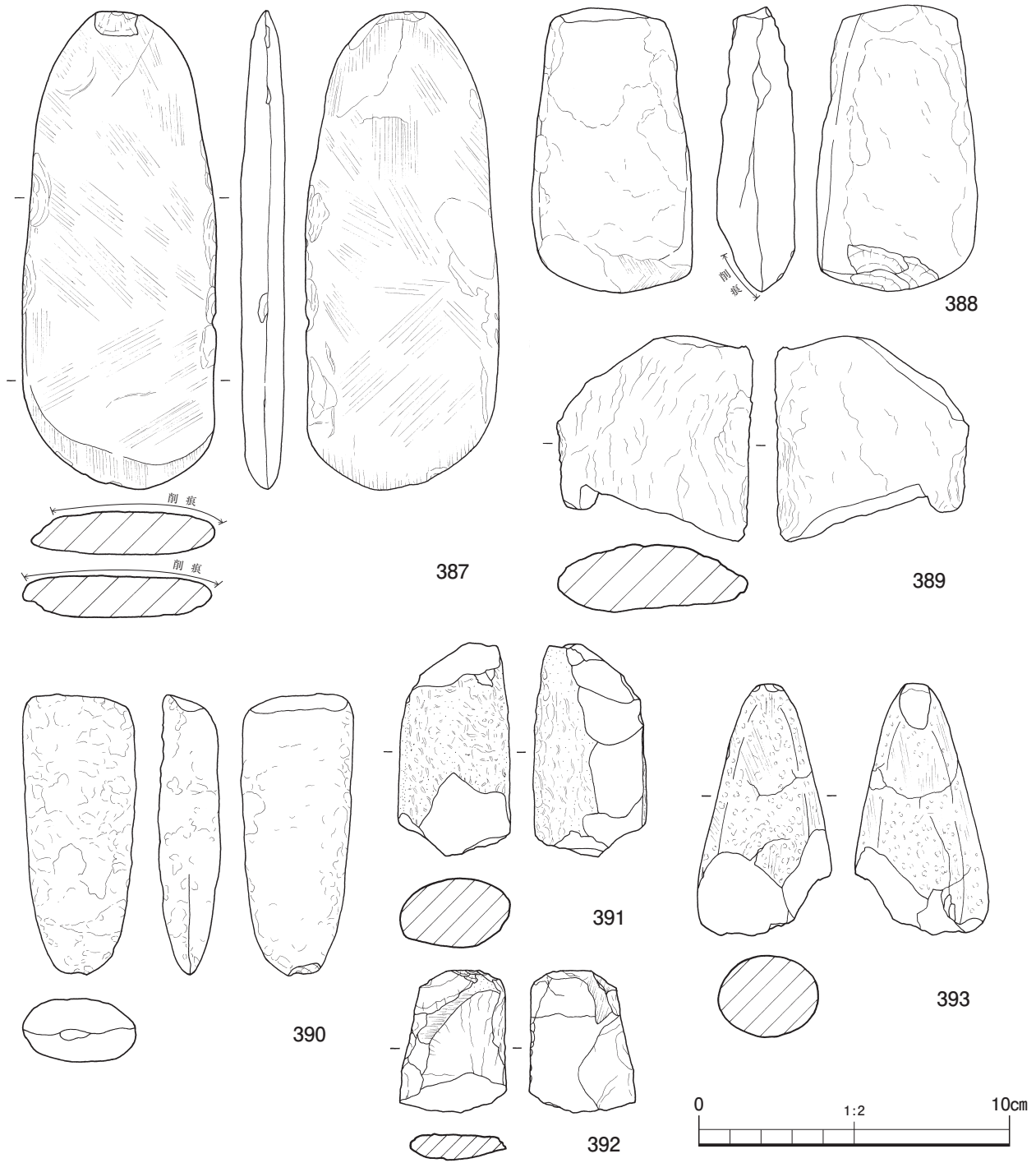
第56图 出土石器实测图④ (1/2)



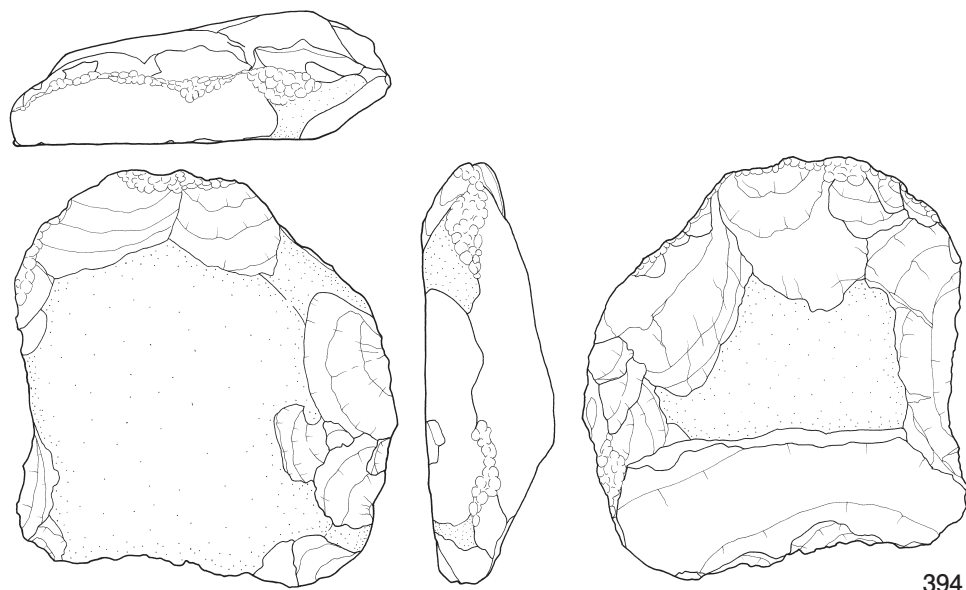
第57図 出土石器実測図⑤ (1/2)



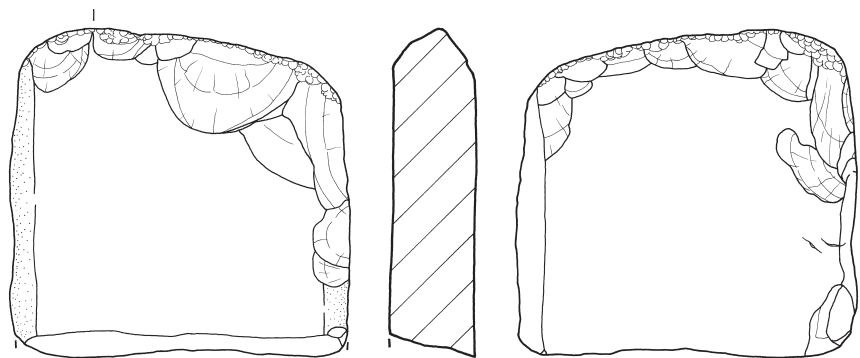
第58图 出土石器实测图⑥ (1/2)



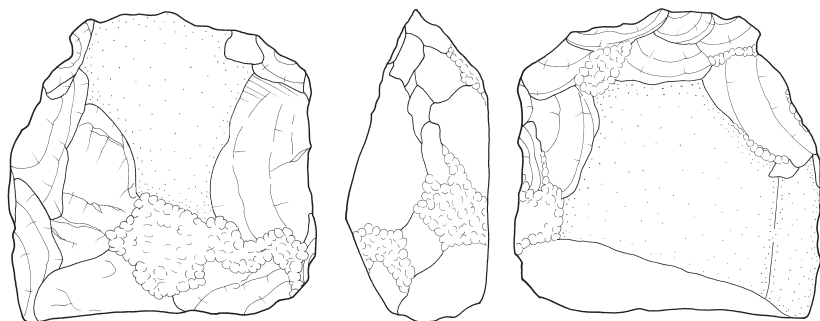
第59図 出土石器実測図⑦ (1/2)



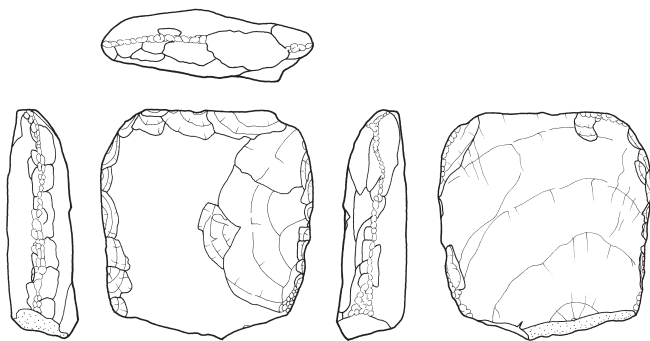
394



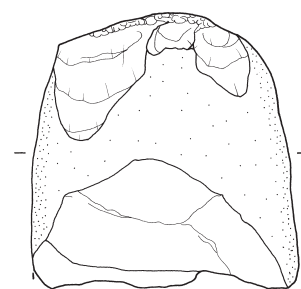
395



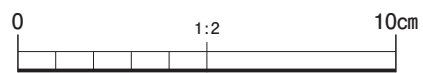
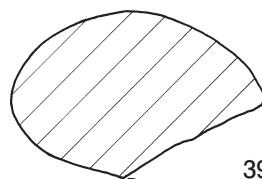
396



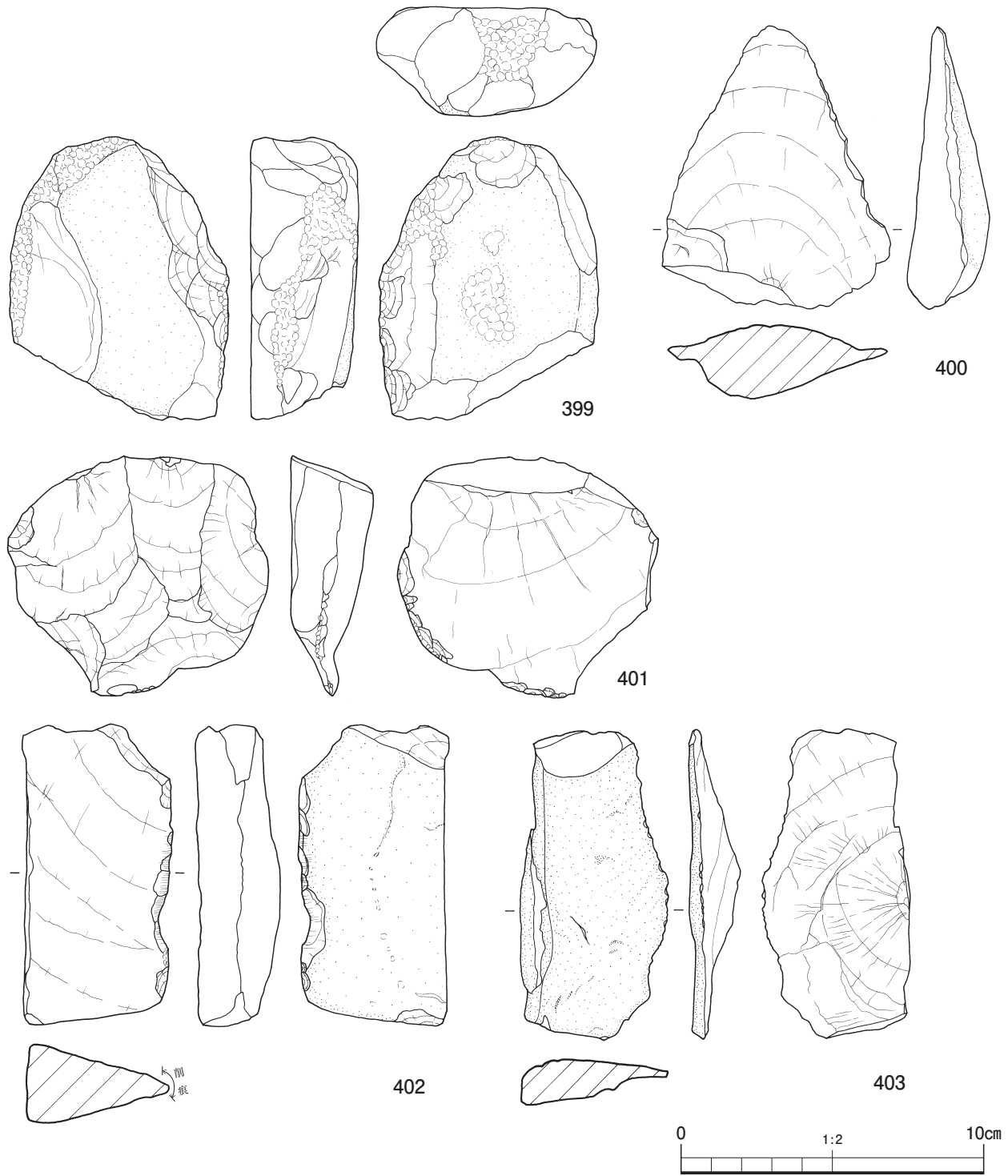
397



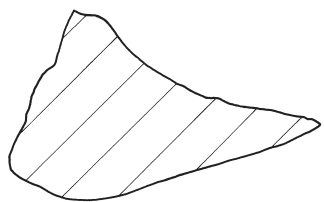
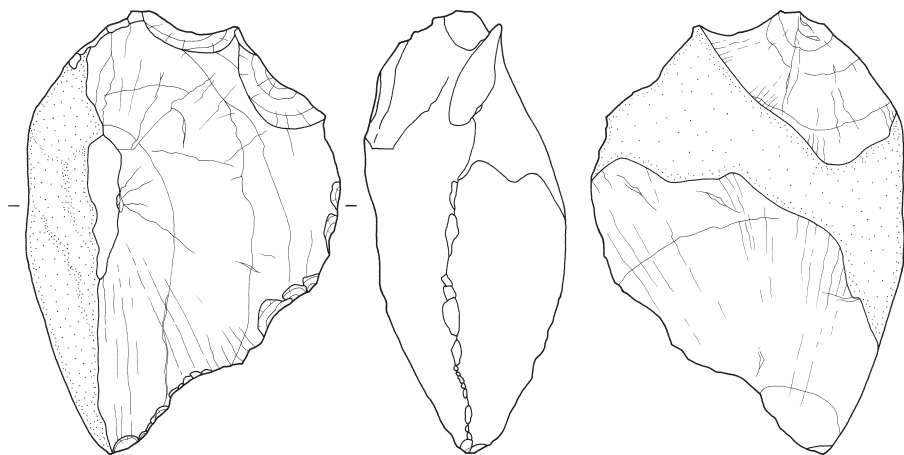
398



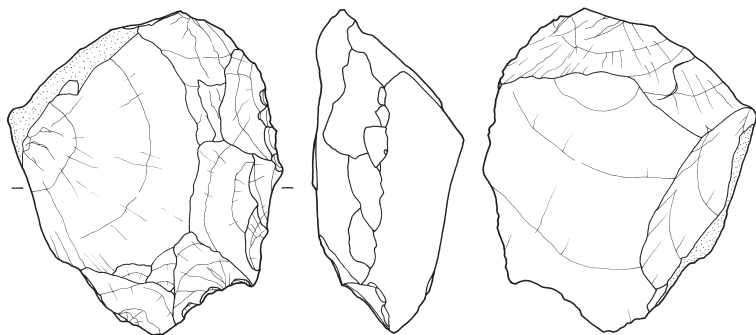
第60图 出土石器实测图⑧ (1/2)



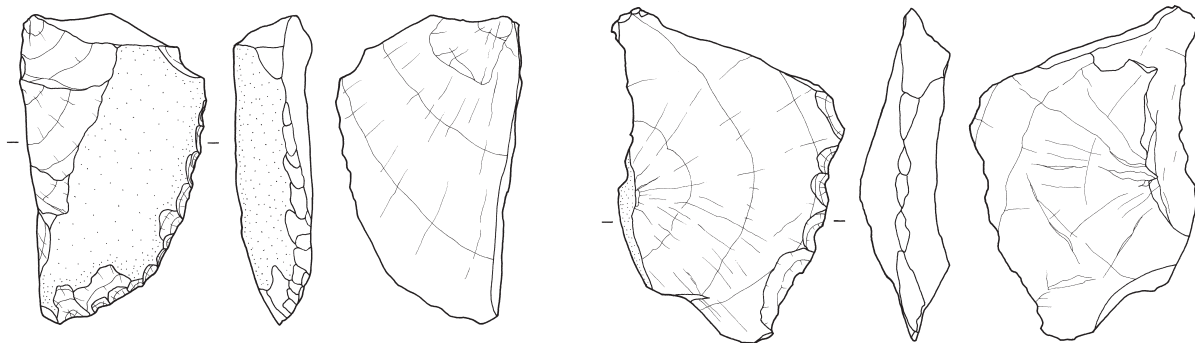
第61図 出土石器実測図⑨ (1/2)



404



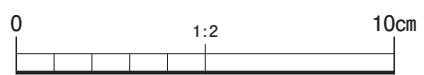
405



406



407



第62图 出土石器实测图⑩ (1/2)

第15表 出土石器観察表①

掲載頁	図番号	掲載番号	遺構等	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	備考	実測 No.		
73	第53図	332	S C 1	石鏃	黒曜石	(1.7)	(1.1)	0.4	0.1	未製品 姫島産	661		
		333	S C 1	石鏃	黒曜石	1.2	1.05	0.4	0.2	欠損品 姫島産	662		
		334	A II 層	石鏃	チャート	1.7	1.2	0.3	0.4		665		
		335	A II 層	石鏃	流紋岩系	1.4	1.2	0.4	0.4		666		
		336	S Z 2	石鏃	チャート	2.5	1.7	0.45	1.3		663		
		337	表面採集	石鏃	チャート	(1.5)	1.75	0.5	0.8	欠損品	668		
		338	C I 層	石鏃	玉髄	2.95	1.55	0.45	1.5		667		
		339	A II 層	石匙	玉髄	4	2.85	0.9	8.9		664		
		340	A I 層	石匙	流紋岩	1.85	4.85	0.7	3.6		669		
		341	A I 層	石錘	砂岩	3.05	2.8	1.35	16.2		627		
		342	C II 層	石錘	砂岩	5.2	4.4	1.8	54.4		602		
		343	B I 層	石錘	砂岩	6.45	4.55	1.35	59.9		609		
		344	S C 1	石錘	砂岩	3.15	2.4	0.8	9		599		
		345	B I 層	石錘	砂岩	3.5	3.09	0.9	14.3		590		
		346	A I 層	石錘	砂岩	4.15	3.45	0.95	18.3		589		
		347	A I 層	石錘	砂岩	5.5	3.3	1.2	43.4		588		
		348	A I 層	石錘	頁岩	6	5.5	1.25	62		587		
		349	SE 2	石錘	凝灰岩	7.5	6.15	2.15	104.4		597		
		74	第54図	350	A I 層	石錘	砂岩	8	4.55	1.05	67		585
				351	C II 層	石錘	砂岩	5.75	5.15	2.45	100.7		592
352	SE 1			石錘	砂岩	7.75	6	1.8	130.1		595		
353	A II 層			石錘	砂岩	6.45	6.45	3.6	206.3		658		
354	A I 層			石錘	砂岩	9.05	8.15	4.1	323.2		586		
355	表面採集			石錘	砂岩	8.45	8.9	2.1	198.6		598		
356	A II 層			石錘	砂岩	7.5	4.72	1.68	95.5		657		
357	C II 層			石錘	砂岩	12	14.8	5.15	1113.1		593		
358	C II 層			石錘	砂岩	5.05	5.4	2.35	87.3		591		
359	C II 層			石錘	砂岩	8.85	6.7	2.3	197		594		
360	S Z 1			石錘	砂岩	7.9	7.45	4.45	342.9		596		
361	表面採集			敲石	砂岩	7.6	7.05	4.45	29.5		633		
362	A I 層			敲石	砂岩	5.35	7.8	2.1	115.3		631		
363	C II 層			敲石	砂岩	7	6.3	2.65	173.4		603		
75	第55図	364	C I 層	敲石	砂岩	9.25	8.55	5	508.2		621		
		365	C II 層	敲石	砂岩	6.6	4.6	3.4	165.4		628		
		366	A II 層	敲石	砂岩	6.28	2.1	2	86.2		659		
		367	A I 層	敲石	砂岩	6.5	4.85	4.9	143.2		625		
		368	A III	敲石	砂岩	8.4	5.78	3.7	225.1		630		
		369	C I 層	敲石	砂岩	9.3	4.9	3.7	266.5		613		

第16表 出土石器観察表②

掲載頁	図番号	掲載番号	遺構等	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	備考	実測 No.
76	第56図	370	B I 層	敲石	砂岩	6.9	8.7	4.9	382.8		612
		371	S Z 1	敲石	頁岩	11.5	8.7	3.6	536.6		620
		372	C II 層	敲石	砂岩	9.5	8.7	5.4	592.2		622
		373	S E 3	敲石	砂岩	9.3	9.75	6.1	658.1		623
		374	S Z 2	敲石	砂岩	11.3	9.3	5.95	993.1		635
77	第57図	375	S Z 2	敲石	砂岩	13.8	10.8	3.2	782.1		632
		376	表面採集	敲石	砂岩	9.9	8	3.15	359.7		617
		377	B II 層	敲石	砂岩	10.1	8.7	6	784.7		616
		378	C I 層	砥石	砂岩	12.15	7	4.25	520.7		619
		379	A II 層	砥石	砂岩	7.2	5.25	3.65	165.6		626
		380	表面採集	砥石	砂岩	5.45	4.35	2.25	80		660
		381	S Z 2	砥石	凝灰岩	7.6	6.15	1.95	133.3	尾鈴酸性岩	600
78	第58図	382	S Z 2	砥石	砂岩	9.65	6.2	4.1	324.8		651
		383	S Z 2	砥石	凝灰岩	7.2	4.35	3.8	152.9	尾鈴酸性岩	615
		384	A II 層	砥石	砂岩	9.05	4.15	3.9	244		607
		385	S Z 1	砥石	砂岩	13.6	9	3.5	661.3		605
		386	C II 層	磨石	砂岩	12.75	11.4	3.9	754.6		608
79	第59図	387	A I 層	石斧	頁岩	15.4	6.2	1.4	233.5	磨製	637
		388	A I 層	石斧	砂岩	9.2	5.3	2.5	169.5		641
		389	S E 1	石斧	砂岩	6.6	6.3	2.2	124.7		638
		390	S E 1	石斧	砂岩	9.05	3.6	2.05	100		655
		391	B I 層	石斧	頁岩	6.85	3.65	2.25	79		653
		392	S E 1	石斧	泥岩	4.68	3.3	0.85	19	磨製	652
		393	表面採集	石斧	頁岩	8.1	4.3	2.55	118.7		654
80	第60図	394	A II 層	スクレイパー	頁岩	10.1	10.1	3.4	446.8	敲打痕	640
		395	C I 層	スクレイパー	砂岩	8.6	9	2.35	371.8	敲打痕	606
		396	A I 層	スクレイパー	砂岩	8.2	8.2	3.75	323.5	敲打痕	643
		397	A II 層	スクレイパー	砂岩	6.05	5.65	1.9	79.7	敲打痕	644
		398	S Z 1	スクレイパー	砂岩	7.25	7.05	4.4	266.8	敲打痕	610
81	第61図	399	表面採集	スクレイパー	砂岩	9.38	7.25	3.55	331.4	敲打痕	642
		400	S E 1	スクレイパー	砂岩	9.35	7.55	2.45	120.5		639
		401	A I 層	スクレイパー	砂岩	7.9	8.65	2.7	161.3		646
		402	A II 層	スクレイパー	砂岩	9.95	4.9	2.8	154.5		656
		403	A I 層	スクレイパー	砂岩	10.28	4.9	1.5	64.5		650
82	第62図	404	表面採集	スクレイパー	砂岩	11.7	8.35	5.3	332.8		649
		405	A II 層	スクレイパー	頁岩	8.55	7.25	4.1	228.4		648
		406	C II 層	スクレイパー	頁岩	8.2	4.98	1.95	84.8		647
		407	S E 1	スクレイパー	頁岩	8.85	6.1	1.8	88.8		645

第Ⅳ章 総括

第1節 縄文時以外の遺構について

今回の調査で縄文期以外の遺構が確認されたのはC区のみである。池状遺構、1号溝状遺構、2号溝状遺構、4号溝状遺構、3号土坑、4号土坑である。2基の土坑に関しては検出状況から、4号溝状遺構に伴う遺構と考えられるが、それ以外の遺構は埋土中から9～10世紀に相当する土師器、須恵器が出土しており、相当期に使用された遺構と考えられる。本文中でも述べたように池状遺構と1号溝状遺構は遺構同士の先後関係を確認できず、同時期に使用された遺構と考えられる。これまでに述べたように遺跡の傍らには山塊が迫っており、特にC区の延長上には山塊の谷部が控えていることが確認できる。その谷部の出口付近の水を得やすい地点に設けられ、土層の最下層でグライ化が確認でき、調査中も常に湧水のあったこの池状遺構は溜め井として機能していたと考えられ、底面が池状遺構とは反対側に向かって下り勾配になる1号溝状遺構はその排水用の溝だったと考えたい。

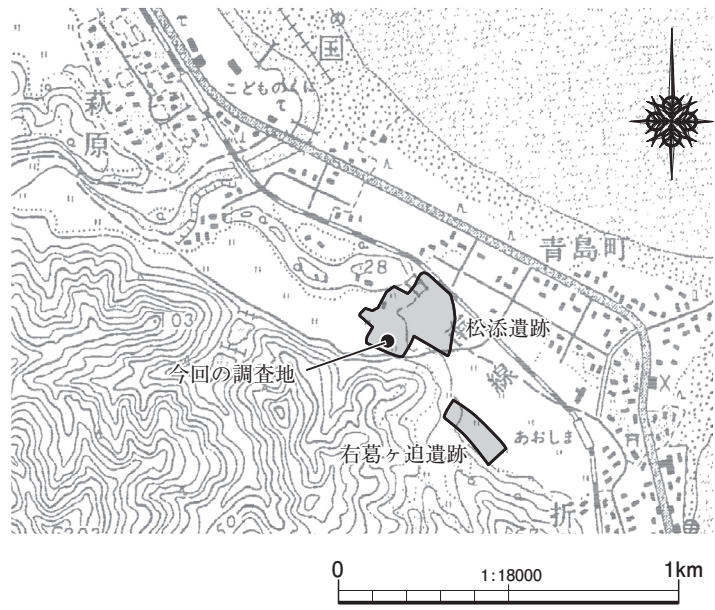
第2節 縄文時代の松添遺跡の環境

今回の調査で確認された遺物の大半はA区、B区の基本層序Ⅱa層、Ⅱb層の遺物包含層からの出土であった。A区Ⅱa層の遺物出土が集中する範囲、C区Ⅱb層の遺物出土が集中する範囲ともにそれぞれ偏りが見られ、調査区外への遺物の分布の広がりを見せる。その先にあるのが平成5年に宮崎市が発掘調査を実施した調査区にあたる。(第2図)この調査区はG区と付され、調査区全面で縄文時代後期から晩期にかけての高密度の遺物包含層が確認されている。今回の調査で確認されたⅡa層、Ⅱb層の遺物集中出土範囲は平成5年調査のG区で確認されたその縁辺部が捉えられたものと考えられる。昭和20年代からの松添貝塚の学術調査を含め、松添遺跡では今回の調査を合わせ、約9800㎡を面的に発掘調査したことになる。特に平成4年から7年にかけて実施された土地区画整理事業に伴う発掘調査では、縄文時代後期晩期の土器を主体とする遺物がパンケース換算で合計1800箱以上出土しており、当該地で大規模な縄文期の集落を想起することができるが、検出された遺構は、集石遺構が1基、円形の土坑が2基確認されたのみで、遺物量に見合うほどの遺構は確認されていない。当時の調査担当者は、特に遺物が集中して出土した場所は、調査時も水がよく湧く場所であったため、本来、遺構を設けるには適さない環境だったとしており、当該地は縄文時代後期後半から晩期の間は土器廃棄場として利用されていたのではないかと結論付けていた。

今回実施された発掘調査においても縄文時代後期晩期の土器は合計160箱以上したが、縄文時代に相当すると考えられる遺構はA区で検出された1号土坑、2号土坑の2基のみであった。

宮崎市田野町にある本野原遺跡は約9000㎡の範囲に縄文時代後期を中心とする竪穴建物113軒、掘立柱建物などが確認されており、西日本最大級の縄文集落とされる。その本野原遺跡でも出土量は約450箱である。松添遺跡の合計2000箱近くになるその出土量は突出しており、傍らに大規模な集落があったことを想起せざるを得ない。第Ⅰ章で述べたように、遺跡の南西側に控える山塊上には縄文集落を形成できる平坦な土地は見当たらないため、丘陵上で生活を営む人々がもたらした遺物とは考えにくい。

松添遺跡のある海岸線に平行して形成された長さ約3.0km、幅0.3~0.5m、標高11.0m程の砂丘には、右葛ヶ迫遺跡、納屋向遺跡などの縄文期の遺跡が点在する。中でも右葛ヶ迫遺跡と松添遺跡は直線距離で300mと近く、調査では縄文時代中期~晩期の竪穴建物2軒、集石遺構8基確認されている。右葛ヶ迫遺跡も遺跡の傍らまで山塊が迫っており、調査で確認された縄文期の遺構の広がりには海側の砂丘上には砂丘上に営まれた集落の縁辺部のとも考えられ、集落本体は海に向かって広がる砂丘上に形成される可能性がある。



第63図 昭和40年頃の松添遺跡の周辺地形 (1/18000)



調査地遠景（宮崎市街地方面を望む）[南から]



調査地遠景（青島本島を望む）[西から]

図版2



A区Ⅲ層検出状況 [上空から]



A区Ⅱ層遺物出土状況① [北から]



A区Ⅱ層遺物出土状況② [南から]



A区Ⅱ層遺物出土状況③

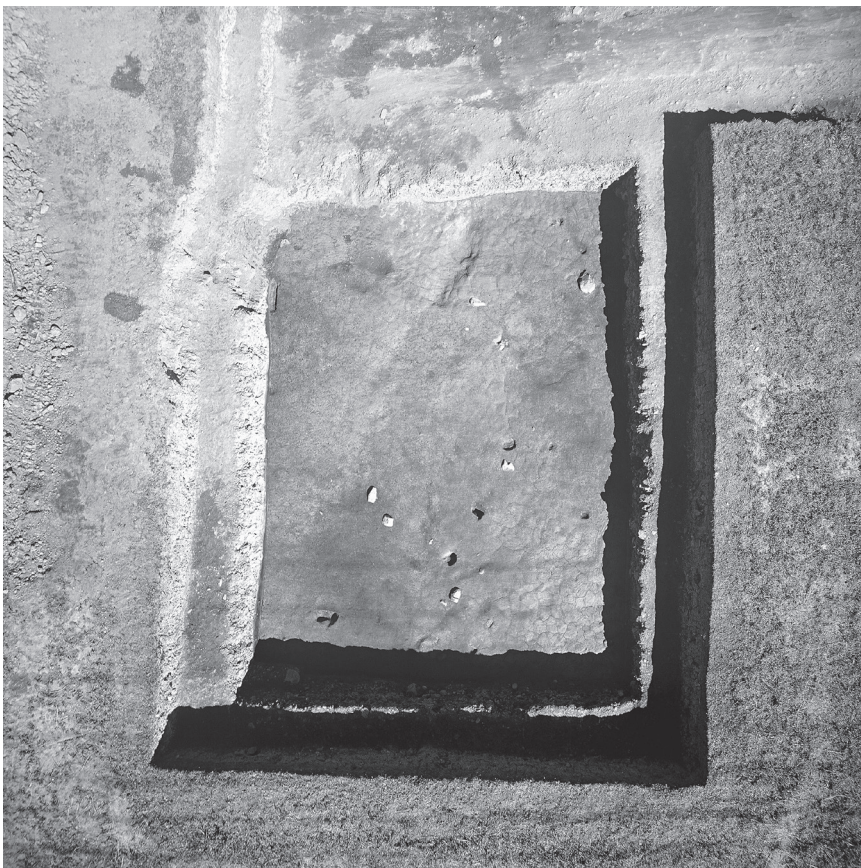


A区Ⅱ層遺物検出状況

図版3



左上：A区1号土坑遺物出土状況〔東から〕
右上：A区2号土坑遺物出土状況〔東から〕
左下：A区3号溝状遺構遺物出土状況〔東から〕



B区V層検出状況〔上空から〕

図版4



C区V層検出状況 [上空から]



C区調査風景 [東から]



1号溝状遺構、池状遺構遺物出土状況 [南から]



池状遺構遺物出土状況 [東から]



1号溝状遺構土層堆積状況 [西から]



谷状の窪み遺物出土状況 [南から]